

2 米國との通商問題

315

昭和11年1月9日 在米國齋藤大使、在ペルー村上公使、在キューバ伊東(隆治)臨時代理公使宛

コロンビアの対日通商政策急変の背景には米

國の策動があるとの我が方商業使節団觀察に

ついて

機密合第一號

(接受日不明)

昭和十一年一月九日

在コロンビア

特命全權公使 岩手 嘉雄

我商業使節ノ當國ニ於ケル交渉經過ニ關スル件

我商業使節一行ハ客年十一月六日當地着本年一月九日工國
ヘ向當地ヲ出發セルカ其間ニ於ケル一行ノ當國政府トノ交
渉經過概要何等御參考迄ニ左記ノ通申進ス

記

一、昭和十年十一月六日 ボゴタ市着

一、同月十一日 外務大臣臨時代理タル大藏大臣「Jose
Soto del Corral」ニ會見約二時間ニ亘リ使節ノ使命立場

ヲ説明シ我方提案ヲ覺書トシテ手交ス即其大要ハ(A)總括
的ニ日コ兩國貿易比率ヲ定ムルコト(B)本邦ヨリノ輸入額
ハ一九三四年度實績ヲ維持スルコト(C)比率ハコ國品購入
ノ爲日本側ニ於テ三割以上ノ損失ヲ生スヘキヲ以テ六對
一以上ナルコト

一、同月十三日 外務省ニ於テ經濟委員會委員ト會見懇談尙
爾後數回ニ亘リ外務省通商局長ト會談ノ結果コ國側ハ對
日輸出入比率ヲ暫定的ニ取極ムル意向アルコトヲ感知シ
得タルモ品種別輸入制限ヲ爲サントスルヤニ見受ケラレ
タリ

一、同月二十八日 一行ハ本使ニ隨伴非公式ニ大統領ニ謁見
大統領ハコ國政府ニ於テハ熱心ニ本問題ノ解決ニ努力シ
居ルコト珈琲ノ買付ハ困難ナルヘキモ石油ニ付テハ日本
側ノ在コ外國系會社產石油買付ヲ以テ對日輸出ト看做ス
ヘキヤ否ヤ研究中ナル旨ヲ述ヘ特ニ大西洋岸ノ海水鹽ノ
輸出ニ付相當乘氣ナル口吻ヲ洩セリ

一、十二月十一日 新外務大臣ゴンサレス・ピエドラヒタト
會見會談中同大臣ハコ國側ハ求償主義ヲ建前トスル旨ヲ
繰リ返シタリ

一、十二月十三日 此日ノ會見ニ於テ外相ハ比率ニ對一案ヲ
強調セルカ折衝ノ結果一九三四年度本邦輸出實績ヲ基礎
トシ假ニ比率四對一トシテ日本カコ國ヨリ買付スヘキ總
額 FOBコロンビア貳百二十五萬圓トシ右ノ商品名品別
數量豫想ヲ提示スヘキコトヲ約ス

一、十二月二十四日 外務大臣ニ對シ一應輸出入共 CIF、
シス四對一トシ買付品豫想明細書(内容海水鹽百六十萬
圓石油七十五萬圓珈琲二十五萬圓ブラチナ、煙草、皮其
他五十五萬圓計三百十五萬圓)ヲ提示ス

一、十二月三十日 外務大臣ト會見外相ハ一九三六年一月開
會ノ臨時議會ニ於テ對米互惠通商協定通過スヘキ豫定ノ
處其結果コ國政府トシテハ新通商政策ヲ樹立スル必要ニ
迫ラレ居リ即チ今後ハ絶體的求償ノ下ニ品種別輸入制限
主義ヲ採用スルニ決シタリ依テ目下通商交渉中ノ智利、
佛國、西班牙ハ勿論其他諸國ニ對シテモ前記協定ノ成立
ヲ俟チ紋上ノ新方針ニテ交渉ヲ進ムヘク從テ日本ト通商
關係ヲ維持シタキコトハ勿論ナルモ日本ノミニ四對一ト
云フカ如キ特典ヲ與フル時ハ其他諸外國トノ交渉ニ支障
アリ依テ此際貴方トノ交渉ハ一應之ヲ打切ルコト、致度

ニ付不惡御諒承アリ度ク就テハ對米協定成立後改メテ交
渉シ度シ云々ト釋明スルト共ニ突如其態度ヲ豹變セリ如
斯同大臣ニ於テ過去二ヶ月間ニ亘ル交渉經緯ヲ無視シ兩
者間ノ諒解ヲ一擲シ不都合ナル應答ヲ爲スニ至レルハ裏
面ニ米國筋ノ壓迫策動アリシニ淵由スルモノナルヤニ想
像セラレタルモ先方ノ態度如此モノアル以上使節トシテ
ハ交渉打切りノ外途ナク依テ事情ヲ具シテ本邦ニ請訓シ
其許可ヲ得タル後越ヘテ一月九日工國ヘ向ケ當地ヲ出發
セリ 以上

本信宛先 在米大使、在秘公使、在玖代理公使
寫送付先 外務大臣

316

昭和11年1月15日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

對フィリピン綿布輸出に関する米國側の主張
は不当であり我が方の誠意を無にするもので
あるとの趣旨で米國側説得方訓令

第一三號

本省 1月15日後1時40分發

貴電第九號ニ關シ

米國側ハ依然トシテ比島統計ヲ云々シ居ルモ協定ニ依レハ八月以降ノ綿布輸入數量ヲ算定スルニ當リ比島ノ輸入統計ヲ基礎トストアルノミニテ八月以降輸入ノ事實ナキ數量迄持出シ比島統計ヲ云々スルモ其ノ當ラサルコト屢次往電ノ通ナリ比島側ニ於テモ從來ノ統計カ輸入ノ事實ト符合セサル點ヲ認メ協定ニ所謂輸入統計作成方折角努力中ニテ現在迄判明ノ數量カ二千五百萬方米餘ニ過キサルコト馬尼刺來電ノ通ナリ米國側ハ我方ノ好意的態度ヲ逆用シ種々難題ヲ持出シ協定ニ對スル誠意ヲ疑ハシムルモノアル處米國側ノ所謂見越輸入ノ如キモ其ノ大半ハ自然増加ト見ルヲ至當トスヘク現ニ自制以來代替品ノ輸入活況ヲ呈シ居ルハ之ヲ裏書スルモノナリ又見越輸入ハ交渉當時豫見セラレタル所ニシテサレハコソ我方ハ協定成立ニ先立チ一ヶ年五千萬方米自制案ヲ提起シタルニ對シ數量ニ難癖ヲツケ之ヲ拒ミ今日ノ結果ヲ招來セル次第ナリ

米國側ノ主張ニ聽從スルコトハ結局協定實施上ノ我方誠意ヲ無ニスルモノト云フヘク之レ我方ノ忍フ能ハサル所ナリ就テハ右ノ趣旨ヲ以テ米國側説得方此ノ上共御盡力相煩度

ヤ進ンテ積止ノ措置ニ出テタルヲ以テ終始公正ニ協定ヲ守リツツアルコトハ勿論二月以後輸入數量ニ關スル我方ノ主張ニ付テモ其ノ充分根據アルコトハ米國側ニ於テモ之ヲ認メサルヲ得サルニ至レルモ抑々本件カ問題化シタル理由ハ累次馬尼刺來電ニテ御承知ノ通り日本綿布ノ輸入ニ制限ヲ課スルコトニ依リ當然米盟綿布輸入ノ道開カルヘシト期待シタルニ事實ハ之ニ反シ而モ一方綿布ノ制限ヲ補フ人絹ノ輸入激増ハ益々此ノ期待ヲ裏切りタルヲ以テ茲ニ米國營業者ハ我方ノ協定違反呼ハハリヲ爲スニ至レルニアルヲ以テ國務省トシテハ我方主張ノ根據ナキニアラサルヲ認ムルトモ比島統計ト云フ武器ヲ有シ

⁽²⁾又當初ハ氣付カサリシモ事實ハ協定成立當時ニ於テ二千八百萬ト云フカ如キ巨額ノ「ストツク」存在シ而モ之カ實際上位米國綿布輸入ノ障礙ヲ爲シ居タルコト判明スルニ至レル今日之カ無條件棒引ヲ主張スル我言分ヲ其ノ儘營業者ニ取次クコトヲ困難トスル事情ハ諒トセサルヘカラサル所ニシテ而シテ一方我方ハ當初協定運用ノ基準ヲ定ムルニ當リ茲數年間ノ比島統計カ常ニ本邦輸出統計ニ比シテ少額ヲ示シ居ルコトニ着目シ客年貴電第二一三號ニ所謂「妙味」ノ發

尙我方ハ既定方針ニ從ヒ二月一日以降一千九百萬方米ノ積出ヲ開始スヘキニ付右御含置ヲ乞フ

「マニラ」ニ轉電セリ

317

昭和11年1月25日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

軍縮會議脫退後の日米關係調整および日米通商關係一般等大局的観点からフィリピン綿布輸出量算定問題での譲歩が得策の旨意見具申

ワシントン 1月25日後発

本省 1月26日前着

第二八號

往電⁽¹⁾第二四號ニ關シ(對比島綿布輸入問題)

本件協定ハ實施後半年ナラサルニ難關ニ逢著シ客年十一月末米國側ヨリ申出アリタルヨリ既ニ二箇月ニ垂タトシ當初ハ議論ノ根據タル數字其ノ他ニ付種々錯誤アリタルモ其ノ後事情判明シ此ノ上議論ノ餘地ヲ餘ササルニ至リタルヤニ存セラルル處其ノ間我方ハ忠實ニ統制ヲ實行シ來リ本邦輸出統計ニ依リ最初六箇月間ノ割當量ニ達シタルコトヲ知ル

揮ヲ期待シタルヲ以テ交渉當時基準トシテ本邦輸出統計ヲ採用セシメ又ハ別ニ比島稅關ヲシテ到着統計ヲ作成セシムル(尤モ此ノ場合ハ劈頭ヨリ二千八百萬方米問題トナリタルヤモ知レス)ノ餘地アリタルヤニ存セラルル處(往電第四一二號御參照)本使トシテモ貴電第二二三號御訓令ニ依リ深ク比島統計作成方法ヲ究ムルコトナク直ニ其ノ採用ヲ申入レ協定ノ成立ヲ見ルニ至レル次第ナルヲ以テ單ナル法律論トシテ無下ニ米國側ノ立場ヲ非トシ我ノミ正當ナリト主張シ得サル立場ニアリト云ハサルヲ得ス(客年馬尼刺宛貴電第一一九號モ此ノ趣旨ニ出テタルモノト存セラル)

⁽³⁾如上ノ經緯ニ鑑ミ比島綿布ノ問題ノミニ局面ヲ限り究極ニ於テハ喧嘩別レヲ辭セサルノ覺悟アルニ於テハ此ノ上飽迄我方ノ主張ヲ以テ押シ得サルニ非サルヘキモ是果シテ大局上得策ナルヘキヤニ付テハ疑無キ能ハス本件ハ寧ろ遠クハ軍縮脫退後ノ日米關係調整及今後益々紛糾ヲ豫想セラルル兩國通商關係ノ全般近クハ本年開催セラルヘキ米比通商協議會、人絹ノ比島輸入ノ將來(冒頭往電會談ノ際も同席ノ國務省係官ハ頻リ二本件解決ヲ人絹輸入ト關聯セシムルコトヲ「サジエスト」シ居タルカ本使ハステハ徒ニ複雑ヲ増

スノミナリトテ反對シ置キタリ)等トノ關係ヲ考慮シ法理、數字ヲ離レテ大局上ヨリ慎重考慮ヲ加フヘキ時期ニ達シタリト存セラルル處本省トシテ對當業者關係上御苦心ノ存スルコトハ重々拜察スルモ國務省ノ立場ヲモ諒解セサルヲ得サル出先ニアル本使トシテハ上述ノ見地ヨリ結局往電第九號裏申ノ「ライン」ニテ少シク色ヲ着ケ國務省ノ對當業者立場ヲ容易ナラシムル程度ニ於テ我方ノ主張ヲ少シク讓歩スルコト已ムヲ得サルニ非サルヤト存セラルルニ付テハ卑見篤ト御攻究ノ上何分ノ御詮議ヲ仰キ度シ

馬尼刺ヘ轉電シ在紐育商務官ヘ暗送セリ

318

昭和11年2月3日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

對フィリピン綿布輸出規制問題に関する我が
方通商局長と在本邦米國商務官との会談内容
について

本省 2月3日後7時30分発

第三一號

貴電第三四號ニ關シ

至ナルニ付我方從來ノ主張通米比側ニ於テ香港廻ヲ完全ニ阻止スルコトニ付確約ヲ與フルコト

(イ)人絹ニ付今後米國側ハ何等苦情ヲ申出サルコト
ノ三項ヲ提示シ先方ハ之ニ對シ自制量ノ積出ニ手加減ヲ加ヘ成ルヘク月別數量ヲ平均セラレ度旨申出タルカ局長ヨリ右ハ商取引ノ實際上困難ナルモ一應先方ノ希望ハ當業者ニ取次キ置クヘシト答ヘ人絹ニ關シテハ先方ハ綿布競争品ナルヲ理由ニ何等カノ協定ヲ締結シ度希望ナル旨ヲ述ヘ右カ困難ナル場合ハ日米双方ニ妥當ト考ヘラルル數量ニテ日本側ニテ輸出自制ヲ爲スコトノ諒解ニテモ與ヘラレ間敷ヤト申出テ之ニ對シ局長ヨリ人絹ニ關スル話合ハ乍遺憾拒否スルノ外ナク實ハ當業者側説得ニ當リ本自制ヲ行ハサレハ米國側ヨリ人絹ニツキ苦情ヲ申出ツル惧アルヘキヲ力説シタル經緯モアルニツキ本問題ヲ持出スニ於テハ形勢逆轉ノ外ナカルヘク米國側ニ於テモ右ハ斷念セラレタキ旨説示シタル趣ナリ

尙先方ハ本件今後ノ交渉ヲ東京ニ移ス様訓令アリタル旨述ヘ居タルニ付局長ヨリ右ハ當方ノ諒解(貴電第三八號)ト相違スル旨答ヘ置キタル趣ナリ

三十一日「グルー」大使本大臣ヲ來訪冒頭貴電ノ趣旨ノ覺書ヲ手交シ(貴電第三八號人絹ニ關スル字句ハ緩和セラレ居レリ)同日及三日二回ニ亘リ來栖局長ト米國側(商務官及館員)トノ間ニ本件ヲ討議シタル結果左ノ通

比島統計ノ解釋及米國側提案ニ付議論ヲ累ネタル結果三日ノ會談ニ於テ局長ヨリ

比島ハ目下雨期ニ入り綿布ノ需要多ク加之長期ニ亘ル積止ニ因リ輸出入業者共ニ今後ノ活潑ナル荷動ヲ期待シ居ルノミナラス最近ハ麻ノ値上リモアリ我當業者ハ今半期最高數量二千三百五十萬方米全部ノ輸出ヲ希望シ米國側ノ要求ニ應スル色ナカリシモ米國側ノ種々困難ナル立場ヲ説明シ漸ク今半期千五百萬方米ニ自制方當業者ノ諒解ヲ取付ケ得ル見込立チタルカ右ニ依リ我方ハ今期八百五十萬方米ヲ讓歩スルモノナル處我自制ノ條件トシテ

(イ)今半期ニ於ケル第二年度ヨリノ融通量四百五十萬方米ハ放棄スルモ協定上今半期ノ輸出可能量千九百萬方米中ヨリ差控フヘキ四百萬方米ハ第二年度ニ繰越スモノナルコト(第二年度ハ總量四千九百萬方米トナル)

(ロ)自制ノ結果香港廻ノ増加ハ比島市場ノ實勢ヨリ見テ必

「マニラ」ニ轉電セリ

319

昭和11年2月14日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

日米通商關係の根本的調整に関する意見具申
方訓令

本省 2月14日後7時15分発

第四〇號

往電第三九號末段ニ關シ

「最近米國政府ハ生産業者ノ運動ニ依リ我方ヨリノ輸入品中殆ト取ルニ足ラサル品目ニ對シ頻リニ制限方要求シ來リ而モ其ノ出方漸次高壓的トナルノ傾向アリ今後モ「ヴェルヴェティン」「コールテン」其他ノ輸入額僅少ナル品目ニ付同様強要シ來ルヘキ處之等商品ノ僅カナル輸入カ全体的ニ米國産業ニ大ナル脅威ヲ與フヘシトハ認メラレス蓋シ「ラッグラッグ」ノ如キ僅カニ在「ニュージャージー」三軒ノ生産者ノ運動ナリト傳ヘラレ今次羊毛製手袋ノ如キモ貴電ニ依レハ僅カ十五軒ノ生産者ヲ保護セントスルニ過キス斯ノ如キ瑣々タル問題ヲ苟クモ國務省

カ一々取上ケ其儘之ヲ我方ニ取次ルカ如キハ種々ナル問題ニツキ終始當業者ヲ押へ來レル我方ノ態度ニ比較シ頗ル奇異ナル對照ヲナスモノト云フヘク之ヲ日米通商均衡ノ現狀ヨリ見ルトキハ全ク主客顛倒ノ感アルノミナラス米國ニモ重大ナル關係アル石油其他ノ問題ニツキ國內一部ノ硬論ヲ押ヘツツアル當方ノ苦心工作ヲモ夫丈ケ困難ナラシムル次第ナリ

ニ、一方本邦輿論ハ米國側近來ノ態度ニ對シ漸次敏感トナリ來リ綿布問題(十三日東京日々論說要旨別電第四一號^{四一號}ノ通り)乃至中南米諸國ノ邦品防遏ニ對スル米國筋ノ策動等ヲ材料トシテ最近日米貿易均衡論ハ漸ク實際的トナリ來リ中ニハ對米重要輸入品ニ關スル輸入統制論ヲ強調スルモノアリ此形勢ハ本件ノ如キ零細ナル品目ニ對スル問題ニ依リ拍車ヲ掛ケラルルカ如キ狀勢ニ在ルコトニ對シテハ右棉議論^{綿論}ノ事實上ノ能否ハ暫ク措キ兩國通商關係ノ大局上米國政府當局ニ於テモ深甚ナル考慮ヲ拂フノ要アリト存セラル

三、就テハ此際右ニ關シ國務省ノ注意ヲ喚起スルト共ニ日米通商關係其他ノ全局上何等カ根本的調整ヲ講スルノ要ア

米國側ニ申入レアリタルコト及米比側ニ於テ右取締ヲ爲ササレハ安値輸入ヲ促進シ日米双方ニ不利ナル點ヲ強調シ米國側ニ於テ立法上ノ困難アリトスルモ本件ハ領事查證制度ノ運用等行政的措置ニ依リテモ或程度ノ效果ヲ發揮シ得ルモノナルニ付至急適當措置セラレ度コトヲ説示シ置キタル趣ナルカ前記ニ關シテハ目下歸米ノ途ニアル「ウエアリング」博士モ我當業者トノ懇談會ニ於テ同様ノ解決案ヲ仄カシタル經緯アリ歸米ノ上ハ國務省ニモ進言スルモノト存セラルル處貴官ヨリモ第三國廻カ市場ヲ攪亂シ我方自制ノ效果ヲ減殺シ居ルコト及右第三國廻取締カ往電第三一號ノ我方提案ノ條件トナリ居ルコトヲ説明セラレ至急適當ノ阻止手段ヲ講スル様引續キ督促セラレ度シ(委細郵報)尙係官ヨリ局長ヨリ申入レノ結果ハ貴地ニテ發表シ度キ希望ヲ漏シタルニ付米國側ニテ任意發表ハ差支ナキ旨回答セラル趣ナリ

321

昭和11年3月3日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

對フィリピン綿布輸出問題に関する米國側作

リト思考セラルル處右ニ對スル何分ノ貴見至急電報アリタシ

紐育及商務官ニ暗送アリタシ

320

昭和11年2月14日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

對フィリピン綿布輸出規制問題に関する米國側再提案への我が方主張について

本省 2月14日後8時0分発

第四二號

貴電第四四號末段ニ關シ

八日米國大使館員來栖局長來訪我方提案(往電第三一號)ニ對スル第二次覺書ヲ提示シタルニ付(内容ハ國務省ヨリ御聞込ノコトト存ス)關係省トモ協議ノ上十四日局長ヨリ、第一年度ニ於ケル四百萬方米切捨(第二年度ニ繰越サス)ノ申出ハ當業者ニ通シ置クモ右ハ日本政府又ハ輸出組合ニ對シ何等新ナル義務ヲ負ハスモノニアラサルコトニ香港其他第三國廻本邦綿布ノ輸入阻止ハ我當業者ノ重大視スル所ニシテ當初ヨリ我方ニ於テ右取締ノ不可能ナリシコトヲ屢次

成メモランダムへの署名の可否および香港積

替問題に関する応酬振りについて

別電

第八〇号

右米國側作成メモランダム

ワシントン 3月3日後発

本省 3月4日夜着

第七九號

貴電第四二號及第五一號御來示ノ次第ハ當時直ニ吉澤ヨリ係官ニ申入レシメタル處東京會談ノ結果ハ之ヲ取纏メテ當地ニ於テ結末ヲ着クル意嚮ニテ數日中ニ「セ」ヨリ大使ノ來訪ヲ求ムルコトトナルヘキニ依リ夫迄ニ「セ」トモ協議ノ上御返事スヘシトノコトナリシカ三日求ニ依リ吉澤帶同往訪シタルニ「セ」モ別電第八〇號ノ通ノ「メモランダム、オブ、コンパーセーション」ヲ讀上ケ御異存無キニ於テハ「イニシアル」シ度シト申出テタルニ依リ本使ハ東京ニ於ケル話ノ進行振ニ付テハ詳細ナル通報ヲ受ケ居ラス況ヤ右書物ニ列舉セル各項ヲ含ム協定ニ「イニシアル」スルニ付テハ請訓ノ要アルコトヲ述ヘ「セ」ハ久シク休暇ノ爲

自身ニ於テモ本件其ノ後ノ成行ヲ詳シク承知セサル結果斯ノ如キ突然ノ申出ヲ爲シタルモノト察セラルタル上過日吉澤ヲシテ係官迄申入レシメタル件ハ最近數量ノ増加セル事實ニ鑑ミ我方ノ重視スル所ニシテ本件覺書ヲ「イニシアル」スル上ニモ關係アリト思考セラルルカ米國側ノ御意嚮ヲ承知シ度シト述ヘタルニ「セ」ハ有效ナル阻止手段ハ今夏比島議會再開ヲ待タサレハ之ヲ講スルヲ得ス

⁽²⁾又領事査證制度ニ依ル手加減ハ今週末「ウエアリング」等ノ歸來シタル上實狀ヲ聴取スル迄確定的ノ意見ハ留保スヘキモ自分等ノ考ヘタル所ニテハ實行不可能ト認メラルト述ヘタルニ依リ吉澤米國側ニ於テ有效ナル阻止手段ヲ講シ得ストノコトナラハ「イニシアル」スヘキ覺書中ニ切メテ香港積替ノ分ニ付テハ日本側ニ於テ責任ヲ負ヒ得サルコトヲ明カニスルコトトシテハ如何ト提議シタル處「セ」ハ斯テハ協定ハ比島統計ノ基礎ノ上ニ成立シ而シテ比島統計ニハ積替ノ如何ニ拘ラス日本品ハ日本品トシテ分類スルコトトナリ居ルノ事實ニ鑑ミ協定ノ根本ヲ破壊スルコトトナルヲ以テ同意スルヲ得スト爲シ吉澤ハ之ニ對シテ從來ノ經緯ヲ指摘シテ論議ヲ重ネ結局「セ」ハ我方ノ直面セル實際上

ノ困難ハ充分了解スルモ猶協定ノ字句ニ依レハ積替品ト雖自制數量中ニ當然包含セラルヘク又香港ヨリノ輸入ニ依リテ日本ノ輸出業者及在比本邦人綿布取扱業者ハ打撃ヲ蒙ルナランモ製造業者ハ何等影響ナキヲ以テ比島市場日米折半ノ根本義ニ鑑ミ解決策ヲ講スヘキモノナリト思考スルヲ以テ

⁽³⁾當座ノ思付トシテ日本側ハ毎月ノ割當ヲ控目ニ見積リ香港廻リノ數字ノ判明スルニ從テ翌月以後ノ積出量ヲ調整スルカ如キ方法ヲ採リ得サルヤト述ヘタルニ依リ本使ハ右案ハ本省ニ取次クヘキモ日本側ハ其ノ統制及ハサル第三者ノ輸入ハ協定數量ニ繰入レサルコトト了解シ來レル關係モアリ之ニ同意スルヲ得サルヘク又香港向輸出業者ハ比島向輸出業者ノ利益ト一致セサルヘク其ノ實際上ノ效果ニ付テハ疑ナキ能ハスト念ヲ押シ置キタリ其ノ他係官ヨリ香港輸入ハ協定後、日本品輸入ハ在比日本商人ニ於テ獨占シタル結果起リタル現象ナルヘキヲ以テ在比支那商人ニ日本品ヲ直接輸入シ得ル途ヲ與フレハ解決スヘシ等ノ意見モ出テタルモ結局「ウエ」等ノ歸着ヲ待タサレハ最後ノ決定ニ達シ難キ模様ニテ結局「セ」ヨリ今次ノ會談中香港積替ノ問題提起

セラレタルカ本問題ニ付テハ双方ニ於テ更ニ研究ヲ遂クルコトトナリタリトノ趣旨ノ了解ヲ明カニシタル上ニテ別電覺書ニ「イニシアル」スルコトノ可否ニ付本使ヨリ請訓アリ度シト希望シ本使之ヲ諾シタル次第ナルニ付テハ敍上ノ經緯御考量ノ上何分ノ儀御回電アリ度シ

別電ト共ニ馬尼刺ヘ轉電シ紐育商務官ヘ暗送セリ

(別電)

ワシントン 2月3日後発
本 省 3月4日後着

第八〇號

⁽¹⁾The Japanese Ambassador accompanied by Mr. Yosizawa, Counselor of Embassy called on Mr. Sayre, Assistant Secretary of State on March, 3rd, 1936.

Japanese Ambassador stated that he was authorized by his Government to inform Government of United States that the association of Japanese exporters of cotton piece goods to Philippine Islands has agreed to following voluntary adjustments of certain details of the

arrangement (密年十月十一日「イニシアル」シタル協定ヲ指ス) instituted by the association to limit imports of Japanese cotton piece goods into Philippine Islands for the two year period August 1, 1935 to July 31, 1937:

1. The total amount of Japanese cotton piece goods to be imported into Philippines during the period February 1, 1936 will not exceed fifteen million square meters.

2. Statistics of arrivals in Philippines of Japanese cotton piece goods compiled by Philippine customs service will be employed as the measure of Japanese cotton piece goods imported into Philippines from February 1, 1936, to the termination of the agreement.

⁽²⁾3. The total amount of Japanese cotton piece goods to be imported into the Philippines between the present time and August 1, 1936, will be distributed evenly so far as possible over the intervening period.

4. The total amount of Japanese cotton piece goods to be imported into Philippines for twelve months

used by Philippine customs statistics of physical arrivals will not exceed forty five million square meters.

5. It will be intension of Japanese exporter to distribute evenly in so far as possible over the twelve months period, the total amount of Japanese cotton piece goods to be imported into Philippines during the second year of the agreement, August 1, 1936, to July 31, 1937.

Furthermore some definite limitation of the amounts to be imported monthly or quarterly during this period will be established as soon as possible. In any event imports will not exceed twenty six million square meters in either semester of this year.

Mr. Sayre stated on behalf of the secretary of state that the Government of United States was pleased to accept these adjustments of the original agreement and

that in doing so it would adhere strictly to its stated intention to take no initiative during the life of the agreement toward securing an increase in the Philippine tariff rates on cotton piece goods.

^③ Mr. Sayre made the further statement that the agreement implies in no way any limitation upon the full liberty of action of the Philippine Government or upon the freedom of the Government of United States to consider without prejudice any action taken by the Philippine Government and the Japanese Ambassador assured Mr. Sayre that this statement was clearly understood.

Mr. Sayre agreed fully to understanding of Japanese Government that agreement referred only to cotton piece goods but he voiced regret that Japanese exporters had not agreed to similar limitation on Philippine imports of Japanese rayon goods and he expressed opinion that policy pursued by Japanese textile exporters with respect to shipments of rayon

goods to Philippines will be a very important factor in determining whether or not the cotton textile agreement is to work satisfactorily.

With reference to this point, the Japanese Ambassador informed Mr. Sayre that opinions and concern expressed by American Government had been placed clearly before Japanese exporters of rayon goods.



322 昭和11年3月4日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

米国の通商政策姿勢および対日輸入規制に關する米國國務長官との応酬振りについて

ワシントン 3月4日後発
本 省 3月5日夜着

第八五號

⁽¹⁾ 往電第八〇號會談ノ際「ハル」國務長官ヨリ口ヲ切り通商障礙ノ低下乃至撤廢ハ刻下ノ急務ニシテ自分ノ目下全力ヲ注ギ居ル所ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ其ノ點ニ付テハ日本政府モ全然貴長官ト同感ニシテ又日米兩國カ事實上之ヲ

提唱スルニ最有利ナル立場ニアルコトハ豫々申上ケタル通ナルカ最近日米間ニ交渉案件トナリ居ル問題ハ少額ナル日本ヨリノ輸入品ニ關係シ寧ロ只今御話ノ根本主義ト逆行スルモノナルコトハ遺憾ナル次第ナリ之ニ關シ最近大臣ヨリ訓令ヲ受ケ居レルカ之ニ付テハ既ニ「セ」次官補ニモ御話シ居リ話ヲ進メ度ク考ヘ居ル處日本政府トシテハ斯ノ如キ隨時少額ノ輸入品ニ關シ問題ヲ起シ感情ヲ苛立テ續クルハ國交上ヨリ面白カラス日本カ輸入超過トナリ居ル特殊關係ヲモ考慮シ何トカスノ如キ「イリテーシヨン」ヲ「フオアストール」スル方法ヲ講シ度キ希望ナリト述ヘ

⁽²⁾ 同長官ハ誠ニ御尤ノ次第ナルカ米國ノ政情ハ御存知ノ通り製造業者ハ自己ノ不利ト見レハ忽チ議會ニLobbyingヲ爲シ特ニ高稅率主義ナル共和黨議員ヲ動カシ其ノ目的ヲ達センコトヲ試ミ自分等ノ努力ニ對抗セントシツツアリ一ツ々々取上クレハ小問題ナルモ同様ノ利害關係ヲ有スル製造業者カ勢力ヲ合シテ運動ヲ爲シ居ル爲自分等モ全ク難局ニ立チ居ル次第ナリ從テ窮極ノ目的タル通商障礙ノ低下乃至撤廢ヲ實現センカ爲ニハ先ツ是等不平等分子ヲ或程度迄沈黙セシムルコト必要ナルヲ以テ已ムヲ得サル場合ニ限り

外國ニ對シ輸入制限等ノ御相談ヲ爲シ居ル點ハ諒トセラレ度シ但シ只今御申出ノ如キ話合ハ有效ト存セラルルニ付「セ」トモ充分協議セラレンコトヲ希望スト答ヘタリ紐育商務官へ暗送セリ

323

昭和11年3月12日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

對フィリピン綿布輸出問題に関する米國側作成メモランダムへの署名は不要なる旨訓令

本省 3月12日後3時発

第六〇號

貴電第八〇號ニ關シ

一、米國側ニ對シテハ既ニ來栖局長ヨリ「我方ニ於テハ協定調整ノ必要ヲ認メ居ラサルモ米國側ニ對スル「ゼエスチュアー」トシテ四百萬方米繰越シニ異存ナシ但右ハ香港廻阻止ニ付米國側カ何等カノ有效措施ヲ講スルコトヲ前提トスル」旨ヲ説示シ置タル次第ニシテ(往電第三一號參照)我方ノ建前ヨリスレハ右ヲ書物トシテ「イニシア」スル必要モナカルヘク寧ろ最初ノ米國側申出通右ノ

趣旨ヲ國務省カ適宜公表スレハ足ルモノト思考シ居レリ何レニセヨ右四百萬方米ノ繰下ケハ香港廻取締ト交換條件ナルコトニ國務省ノ注意ヲ喚起スルノ必要アリ

二、米國側案文四ノ for twelve months(以下貴電字句不明再電アリ度シ)ハ前後ノ關係ヨリ判斷シ第二年度ヲ意味スルモノト解セラルル處斯克テハ四百萬方米繰下ケヲ認メサルコトトナリ我方ノ諒解ト根本的ニ喰ヒ違フ來スヘキニ付我方ハ四百萬方米切捨ニ同意シタル事實ナキ旨ヲ強調セラレ度シ(切捨ニ關スル米國側ノ希望ハ單ニ之ヲ當業者ニ取次キ置クモ之ニ依リ政府又ハ組合ニ於テ新ナル義務ヲ負フモノニアラサルコト往電第四二號ノ通り)三、月別輸出數量ヲ平均ナラシムルコトハ當業者ニ通シ置タルモ之ハ香港廻取締問題ニ關係シ居リ右取締方法決定セサル限り效果ナカルヘシトノ意見ナリ四、當地ニ於ケル交渉ノ經緯ハ往電第三一號、第四二號及第五一號竝ニ二月十七日附往信通三機密第二八號(來栖局長回答要旨)ノ通ナルニ付右御參照ノ上今後米國側ヨリ此ノ種我方ノ立場ヲ曲解セル申出アル場合ハ即座ニ反駁ヲ加ヘラレ先方ノ反省ヲ促ス様御配慮相煩度

尙比島稅關到著統計ニ依レハ客年八月一日以降十二月末迄ノ本邦綿布輸入(香港廻ヲ含ム)ハ二千五百七十五萬方米餘ニシテ本年一月中到著ノ分(香港廻ヲ含マス)十四萬八千方米餘ヲ加算スルモ未タ協定量二千六百萬ニ達シ居ラス(馬尼刺來信第八四號及同來電第四三號參照)從テ前記二ノ四百萬方米ノ切捨ノ如キハ問題トナラサルモノト思考ス「マニラ」ヘ轉電セリ

324

昭和11年3月12日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

對フィリピン綿布輸出問題に関する訓令の趣旨執行に躊躇せざるを得ない旨について

ワシントン 3月12日後発
本省 3月13日夜着

第九六號

貴電第六〇號ニ關シ(對比島輸出綿布問題)

本使「セ」會談ノ際ハ二月十七日附貴信接到セス又四百萬切捨提議ニ對スル當業者ノ意嚮ニ付テモ承知セス一方「セ」ニ於テハ如何ニモ了解成立シタルモノノ如ク書物ヲ

用意シアリタルヲ以テ覺書諸點ニ付テハ何等意見ヲ表明スルコトナクシテ其ノ儘請訓シタル次第ナルカ冒頭貴電ニ依レハ事態ハ貴電第三一號接到當時ヨリ何等進展シ居ラサルモノノ如ク思考セラレ此ノ儘御來訓ノ通り申入ルルニ於テハ「セ」ハ往電第四四號ノ通ノ挨拶ヲ繰返スヘク進ンテ香港積替問題ニ付テモ先方ノ法理的主張ヲ讓ラシメ實際的ノ解決ニ向ツテ歩ヲ進ムルコト困難ナルヤヲ俱ルル次第ニシテ更ニ貴電末段ノ數字ハ之ヲ先方ニ呈示スルトキハ先方覺書第二點到着統計採用ヲ第一、第四ノ點ト牽連セシメ居ル關係上更ニ議論ヲ逆轉セシムルコトトナルヘキヲ以テ本使トシテハ米國側カ萬一其ノ主張ヲ改メサル場合ニ處スル本省窮極ノ御意嚮ニ付承知セサル限り御訓令ノ執行ヲ躊躇セサルヲ得サル次第ナルニ付テハ如上ノ事情充分御諒察ノ上折返シ何分ノ儀御回電アリ度シ

馬尼刺ヘ轉電シ紐育商務官へ暗送セリ

325

昭和11年3月17日

広田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

米國側作成メモランダムは東京での会談内容

を逸脱するものであることおよび香港積替問題への米國側の善処方要請について

本省 3月17日後6時発

第六七號

貴電第九六號ニ關シ

米國側申出ハ往電第三一號ノ趣旨ヲ逸脱スルコト甚タシク到底其儘受諾シ得サル處今後米國側カ協定ノ目的達成ニ必要ナル協力(殊ニ香港廻取締ヲ與ヘ爲之我當業者モ數量制限ニ依ル市價ノ値上リノ利益ヲ感得スルニ於テハ米國側ノ主張スルカ如キ四百萬方米切捨ヲ云ヒ出スモ當業者トシテハ強ク反對ノ理由乏シキ次第ナルカ我方ノ最も重要視スル香港廻ニ付テハ單ニ實行不可能ヲ理由ニ何等ノ努力ヲモ示サス我方ヘノミ讓歩ヲ強ユルノ現狀ニテハ當方トシテモ殆ト措置ニ窮スル次第ニシテ我方ニ於テハ努メテ協定ノ圓滑ナル運用ヲ期シ第二年度ニ於ケル四半期別自制ニ付テモ考慮ヲ加ヘントシ居ル矢先ナルニモ鑑カミ米國側ヲシテ餘リ矢繼早ニ我方ノ讓歩ノミヲ求ムルコトヲ避ケ香港廻取締ニ付事實上ノ阻止方法ヲ講セシムル様御盡力アリタシ
尙本件ニ關聯シ米國側ハ再ヒ人絹ノ自制ヲ要求シ來ルヤモ

ワシントン 3月25日夜発

本省 3月26日後着

第一一〇號

貴電第六〇號及第六七號御訓令ノ次第ハ曩ニ吉澤ヲシテ篤ト係官ニ申入レシメ置キタル處二十五日「セーヤー」ト會見ノ際「セ」ハ香港積替ニ對スル措置ニ付テハ領事查證制度其ノ他ニ付種々研究シ見タルモ「ウエアリング」等ハ歸來數次關係係官ト協議ヲ重ネタル趣ナリ(結局有效ナル合法的取締ノ考案着カス乍併一方本協定ヲ失敗ニ歸セシムルコトハ此ノ種協定ノ不成功ヲ示シ其ノ日米通商關係全般ニ及ホスヘキ影響ニ鑑ミ極力之ヲ避ケサルヘカラサル所ナルヲ以テ慎重協議ノ末大局上ノ見地ヨリ到著統計ノ適用ヲ協定實施ノ當初ニ溯ラシムルコトトシ客年八月一日存在シタル滯貨問題ハ之ヲ「ドロップ」スヘキニ付日本品ニシテ香港積替ノ分ニ付テハ依然之ヲ割當量中ニ計(算)スヘキモ日本側ニ於テ何トカ統制ノ方法ヲ講セラレ以テ協定ノ運用ニ支障ナキヲ期スルコトトシ問題ノ解決ヲ計リ度シト述ヘタルニ依リ同席ノ吉澤ハ然ラハ本年度ニ於ケル四百萬切捨ノ主張ヲ撤回セラルル次第ナリヤト尋ネタルニ

知レサル處人絹市價暴落ニ因ル海外市場攪亂ニ關シテハ各地ヨリ苦情續出シ官民共ニ市價統制ノ必要ヲ痛感シ最近急速ニ具体化ノ氣運ニ向ヒ居リ人絹ノ爲蠶食セラレツツアル綿布市場確保ノ見地ヨリモ我方ハ人絹ヲ無統制ニ放任スルヲ得サル立場ニ在ル次第ナルカ外國ノ壓迫ニ依リ統制ヲ行フカ如キ形式ハ極力避クルノ要アリト思考セラルルニ付何等カ申出アラハ右ノ趣旨ニテ拒絕スルコト致度シ
要スルニ米國側ハ東京ニ於ケル話合ヲ曲解シ御來示ノ通ノ主張ヲ爲シ居ルモノト存セラルルニ付屢次ノ往電公信及本電ノ趣旨ニ依リ今一應本件成行ヲ米側ニ篤ト説明ノ上往電第六〇號申進ノ趣旨ヲ申入レラレ度シ
「マニラ」ヘ轉電セリ

326

昭和11年3月25日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

對フィリピン綿布輸出協定にかかわる輸出統計処理問題および香港積替問題に関する米國側再提案について

「セ」ハ其ノ通ナルカ積替ノ分ハ結局四百萬ノ範圍内ニテ何トカ處分セラルルコトトナルヘキヤニ思料セラルルヲ以テ自分ハ態ト四百萬ノ主張撤回(同)ト言ハサリシ次第ナリト答ヘ更ニ係官ヨリ第二年度ヨリ一割ヲ繰上ケサルコトノ了解ハ其ノ儘ト致シ置キ度シト述ヘタル後「セ」ヨリ本使ノ意見ヲ求メタルニ依リ本使ハ右ハ局面打解ノ一案ト考ヘラルルヲ以テ早速東京ニ取次クコトトスヘシト答ヘ置キタルニ付テハ右至急御攻究ノ上折返シ應酬振御同訓ヲ請フ
尙右會談後係官ヨリ吉澤ニ對シ本日ノ案ニシテ幸ヒ日本政府ノ同意ヲ得タル上ハ改メテ書物ヲ作りテ「イニシアル」スル必要モナカルヘシト考ヘル旨電話アリタルニ付吉澤ハ貴電第六〇號ノ次第モアリ右ハ外務省ノ意嚮ニモ合致スルモノト認メラルルヲ以テ夫レニテ差支ナシト思考スル旨答ヘ置キタル趣ナリ
馬尼刺ニ轉電シ紐育商務官ヘ暗送セリ

327

昭和11年3月26日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

米國の真意は関税引下げによる通商障撤去

にあり日本の対中南米通商発展を阻止する意
向はない旨セイヤー國務次官補発言について

ワシントン 3月26日後発
本 省 3月27日前着

第一一三號

貴電第四〇號御訓令ニ對スル當方意見上申ニ先立チ國務長
官及「セイヤー」等ト意見ヲ交換シツツアル次第ハ屢次往
電ノ通ナルカ往電第一一〇號會談ノ後之カ繼續トシテ一般
問題ニ入ルニ先立チ「セ」ハ最近在東京米國大使館々員
「デイコーバー」ト來栖局長トノ會談ニ關スル「ミニツ
ツ」ノ一節ヲ讀上ケ右ニ依レハ局長ハ國務省カ採ルニ足ラ
サル問題ニ付一々Lobbyistノ陳情ヲ取上ケ日本側ノ自制
ヲ迫ルモノト解セラレ之ニ對シテ不滿ヲ表明シ居ラルルモ
ノノ如ク見受ケラルル處スノ如キ誤解ノ存スルコトハ自分
ノ最遺憾トスル所ニシテ國務省ノ努力ハ寧ロ「ロビスト」
カ議會ニ持出シテ駭立ツルコトヲ阻止スル爲又ハ純毛製手
袋ノ場合ノ如ク「ロビスト」活動ノ結果關稅委員會ノ調査
アリタル後モ尙何トカシテ「マンダトリ」ナル大統領令
ノ措置ヲ必要トセサル様最後ノ手段ヲ盡スニアリタル次第

ニ研究シタル次第ニモアラサルヲ以テ何ナリト日本側ニ於
テ提案ヲ有セラルルニ於テハ之ヲ承リテ研究致度シ尙日本
ハ中南米市場トノ關係ヲモ對米關係ト牽聯セシメ考ヘ居ラ
ルルモノノ如キ處米國政府カ政府トシテ日本ノ中南米發展
ヲ阻止スルノ意嚮ナキコトハ申ス迄モナク唯商人ノ活動ハ
之ヲ阻止スルノ途モ(脱?)之スラ出來得ル限り「デスカレ
ツデ」スルコトハ豫々申上ケ居ル通ニシテ前述米伯協定締
結ノ内情ニ照ラスモ明カナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ此ノ
確言ヲ得ルコトハ帝國政府ノ喜トスル所ナルヘク從テ御協
議ヲ進メントシ居ル通商協定中ノ一項トシテ通商三角關係
主義ニ關スル申合ヲ包含セシムルカ如キモ一案ナルヘシト
述ヘタルニ「セ」ハ此ノ點關係同僚ノ意見ヲ徴シ見ルヘシ
ト述ヘ居タリ

本件會談ハ今後モ機會ヲ見テ續行シ其ノ結果ニ就テハ隨時
報告スヘキモ前記來栖局長ノ所見ニ就テハ特ニ「セ」ハ前
記釋明ヲ何等カノ方法ヲ以テ本省ニ傳達ヲ希望スルカ如キ
口吻ヲ洩ラシ居タル次第モアリ御參考迄ニ電報ス
紐育商務官ヘ暗送セリ

ニシテ又小問題ヲ取上ケ云々ト言ハルルモ自分等ノ觀ル所
ニテハ貴國ノ産業全體ヨリ見テ又兩國通商關係ノ大局ヨリ
考ヘテ影響スル所比較的小範圍ニ止マルヘキ小問題ヲ其ノ
發生スルニ從テ處理スルコトコソ將來ノ重大ナル問題ノ發
生ヲ豫防シ

又發生スルモ其ノ解決ヲ容易且双方ニ取り有利ナラシムル
所以ナリト信ス此ノ見地ヨリ行動シツツアル次第ナリト釋
明シ日本側ニ於テ米國ハ關稅ノ引上ニ依リテ日本品ノ輸入
ヲ阻止セントシツツアルモノノ如キ印象ヲ有セラルル處現
政府ノ眞意ハ關稅ノ引下ニ依ル通商障礙撤去ニアルコト御
承知ノ通ナリト此ノ點ニ於テハ日米兩國ノ通商政策ハ一
致スル所アルヲ以テ兩國通商關係調整ノ爲ニハ特ニ取極等
ヲ要セス前述米國側ノ昨午米伯通商協定締結ノ内情ニ言及
シ當時兩國通商關係カ米國ニ不利ナルノ實情ニ顧ミ一部關
係實業家等ノ中ニハ求償的取極ヲ主張スル者アリ伯刺西爾
亦之ニ應スルノ意嚮ヲ示シタルカ政府ハ如上ノ政策ヲ固持
シテ單ニ互惠協定ヲ結ヒタル次第ナリ(此ノ點極秘)ト述ヘ
眞意ヲ能ク了解セラレテ個々ノ問題ニ付善處スルコトニ依
リ其ノ目的ヲ達シ得ルニアラスヤト考ヘラルルモ自分ハ特

328

昭和11年4月3日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

本邦の自動車製造事業法および石油業法に關
する米下院分科委員會での米國國務長官の發
言について

ワシントン 4月3日後発
本 省 4月4日前着

第一二〇號

「ハル」長官ハ過日ノ下院分科委員會ニ於ケル一九三七年
度國務省豫算ニ關スル一般的説明ニ於テ日米貿易關係ノ重
大性ヲ強調シ問題トナレル輸入品ニ付テハ夫々非公式協定
ノ締結乃至締結交渉中ナル旨ヲ力説セル後日本ニ於ケル米
國民ノ權益保護問題ハ數年前ニ比シヨリ深甚ナル考慮ト注
視ヲ要スヘク他面對日關係ノ増進ニ伴ヒ問題カ一層多岐ニ
亘レルノミナラス困難ヲ招致シ來タレルカ現在日本ノ自動
車工業ニ於テ重要地位ヲ占ムル米國ニ大會社ノ犠牲ニ於テ
斯業ノ獎勵ヲ企ントスル日本政府ノ方針ニ關聯スル米國自
動車工業ノ保護問題ト同様新立法ニ依リ日本ニ於テ營業ニ
從事スル外國石油會社及米國民ニ重荷ヲ負擔セシメントス

ル問題ニ對シテハ須ラク不斷ノ注意ヲ要スヘシトノ趣旨ヲ述ヘタル旨三月三十一日公表セラレタリ御參考迄

329

昭和11年4月27日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

国内での反対派の運動抑制のため対米日本綿布輸出に関する紳士協定締結または関税引上げ容認を求める米國側申出について

ワシントン 4月27日後発
本省 4月28日後着

第一四七號(至急)

二十七日求ニ依リ「セーヤー」ヲ往訪シタルニ「セーヤー」ハ今日ハ日本綿布輸入ノ問題ニ付來省ヲ煩ハシタルカ具體的ノ御話ニ入ルニ先立チ原則ニ付國務長官ヨリ申上クルコトナリ居レリトテ「セーヤー」同道長官ニ面會シタル處「ハル」ハ米國現政府ハ日本政府ノ方針ト同シク通商障壁ノ打破ニ極力努メ來レルコト御承知ノ通ナルカ國內ニハ此ノ政策ニ反對スル向モ尠カラス而シテ選舉ヲ控ヘテ現大統領ノ再選ヲ期スル現政府トシテハ時ニハ反對派

(1) 二十七日求ニ依リ「セーヤー」ヲ往訪シタルニ「セーヤー」ハ今日ハ日本綿布輸入ノ問題ニ付來省ヲ煩ハシタルカ

ノ主張ヲモ取入レサルヲ得サル苦シキ立場ニ立ツコトアリ
斯ノ如キ場合ニハ當該國ノ理解アル協力ヲ得テ難局ヲ打開シ以テ根本的政策ノ遂行ニ大ナル支障ヲ來ササル様努ムルノ外ナキ處日本綿布輸入ノ問題ハ恰モ斯ノ如キ場合ノ一ニシテ詳細「セーヤー」ヨリ申上クヘキ所ニ就キ日本政府ノ協力ヲ希望スト述ヘタルニ依リ本使ハ米國政府ハ日本綿布輸入ニ付テハ其ノ根本的通商政策ノ例外ヲ來スヘキ措置ヲ採ラレントスルノ御意嚮ナリヤト反問シタルニ長官ハ誠ニ其ノ通ナルカ米國ノ政情ニ鑑ミ斯ル事態ニ於テ反對派ノ氣勢ヲ和ケ置カサルニ於テハ全體ヲ打毀スコトナリ米國ニ對シテモ不利ノ狀況ヲ招來スヘキ事情御諒察ヲ請フト述ヘタリ
引續キ「セーヤー」ハ自室ニ於テ縷々本問題ニ付最近議會内外ニ於テ反對運動ノ盛トナレル狀勢ヲ述ヘ
(2) 右ノ事情ノ下ニ關稅委員會ハ豫テ續行シ來レル審議ノ報告書ヲ完成シ既ニ大統領ノ手許ニ提出シアリ大統領ヨリ自分ニ意見ヲ求メラレタルニ依リ不取敢右裁決迄二十日ノ猶豫ヲ求メ其ノ間ニ日本ト相談スヘキ旨回答シ置キタルヲ以テ至急今日御來訪ヲ煩ハシタル次第ナルカ事茲ニ至リテハ(一)

客年十一月提議ノ「ライン」ニ於テ紳士協定ヲ早急ニ締結スルカ若シ日本政府カ政治上其ノ他ノ理由ヨリ之ヲ困難トセラルルニ於テハ(二)關稅法第三百三十六條(A)ニ依リ日本綿布ノ相當數量輸入ノ餘地ヲ存スル様手心シテ關稅ノ引上ヲ行フノ外ナキ處右(一)ノ場合ハ本年四月以降十二箇月間ノ協定數量ヲ大体昨年十二月迄ノ一箇年消費輸入量三六四四萬ト致度ク(二)ノ場合ニモ關稅引上後右數量迄ハ輸入ヲ可能ナラシムル様按配シ得ル見込ナルカ孰レニシテモ餘日モナキコトナレハ此ノ上「バーゲーン」ノ餘地ナキモノト御承知アリ度ク自分トシテハ紳士協定ヲ切望スルモ貴方ニ於テ右不可能ノ事情アルニ於テハ(ハ)不本意乍ラ斷行スヘキ關稅引上ニ依リ日本政府カ昨年十二月與ヘラレタル「アツシユアランス」ヲ實行スルコトヲ容易ナラシメ得ヘキカトモ考ヘ居レリ云々ト述ヘタリ
(3) 依テ本使ハ右ノ趣ハ政府ニ取次キ至急訓令ヲ仰クコトトスヘキ旨ヲ述ヘタル後先方提示ノ統計ニ依レハ昨年十二月末總計ニ於テ「ゼネラル、インポーツ」ハ四八八四萬トナリ居リ「インポーツ、フオーア、コンザンブション」トノ間ニ開アル處比島ノ問題ト同様我方統制ハ輸出ニ際シテノミ

可能ナルヲ以テ數字ノ基準ヲ消費輸入ニ置クコトノ危險ヲ指摘シタルニ「セーヤー」ハ本年三月迄ノ數字ヲ見ルニ總輸入ハ一七八八萬ニテ昨年同期ニ比シテ一一五萬ノ増加ニ過キサルニ消費輸入ニ於テハ二一五三萬トナリ居リ昨年同期ヨリ八七六萬ノ増加ヲ示シ居ル事情ヲ説明シ米國統計ニ於テハ毎月末在庫數量判明シ居ルヲ以テ假(一)四月以降十二箇月間ノ紳士協定成立可能ノ場合ニハ前記三六〇〇萬餘ノ數字ヨリ三月末在庫數量七一六萬ヲ差引ケハ統制數量ノ目安ヲ立テ得ヘシト述ヘ居タリ
就テハ大至急右ニ對スル回答方御訓示ヲ請フ
紐育商務官ヘ暗送セリ

330

昭和11年4月28日

有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

我が方の対米綿布輸出自主規制を今後も見守
るよう米國側へ申入れ方訓令

第九四號

本省 4月28日後0時40分發

貴電第一二一號ニ關シ

(一)「ポルトリコ」向本邦綿布ハ米國ノ同地向綿布ニ比スレハ數量金額共ニ問題トナラサルノミナラス同地向本邦品ノ大部ヲ占ムル sheeting ハ米國向ノ mul 品質異リ「ポ」ニテ加工ノ上輸出セラルルモノナルヲ以テ右ヲ米本國向ノ晒ト同一視スルハ當ヲ得ス且協調會ノ輸出自制ヲ「ポ」ニ迄擴張スルハ米國向綿布ノミノ取扱業者ヲ以テ組織スル同協調會ノ自制機構上實行殆ト不可能ナリ

(二)米國ハ本邦綿布ノ輸入カ偶々一、二月増加シタル爲今後共右趨勢カ加速度的ニ繼續スルモノノ如ク懸念シ居ルヤニ認メラルル處右カ永續的現象ニ非サルコトハ本邦ノ對米綿布輸出カ十二月ヨリ翌年三月迄ヲ最盛期トシテ以後漸減スルコト竝ニ米國向晒ノ大部ヲ占ムル mul 大體下級「ハンカチーフ」ノ材料トナリ其需要ニ自ラ限度アルノ事實ニ徴シ明白ナリ

(三)協調會ハ昨年四月以來晒ノ對米輸出カ毎月五百萬方碼ヲ超過セサルコトヲ以テ自制ノ根本方針トナシタルカ之ヲ實績ニ徴スルモ右數量ヲ超過シタルコトナク又將來ト雖モ前項需要ノ關係上如何ニ増加ストモ月五百萬ヲ超ユルコトナカルヘク他面本邦業者ハ右程度ノ輸出カ年八十億

方碼ノ生産高ヲ有スル米國綿業ノ脅威トナラサルヘキハ勿論日印協定等ト比較シ我方コソ右自制ニ依リ大ナル犧牲ヲ拂ヒ居ルモノトナシ居リ當方トシテモ右程度ノ輸出ノ爲米國側カ斯程迄ニ問題視スル理由ヲ解スルニ苦シム次第ナリ

四)中米及カリビアン地方ニ於テハ米國ノ互惠協定政策及米國業者ノ運動等ノ爲本邦綿布輸出ハ激減ノ一路ヲ辿リツツアル半面米國綿製品ハ本邦品ニ代リ之等市場ニ躍進シツツアル處此上米本國ニ於ケル少量ノ輸入ニ付テモ更ニ制限ヲ加ヘムトスルハ餘リニ勝手ノ沙汰ニシテ米國ノ政策ハ自由通商及三角貿易ノ理論ニ依リ第三國ノ求償要求ヲ封スルト共ニ互惠協定ニ依リ(特ニ中南米ニ於テ)相手國市場ヨリ第三國品ヲ驅逐セムトスル極メテ巧妙且辛辣ナルモノナリトノ疑念ヲ深クスル者少カラズ

(五)就テハ貴官ハ前記(一)ニ依リ「ポ」向綿布ハ全然之ヲ問題外トシ單ニ米本國向晒綿布ニ問題ヲ限局スルコトトシ而シテ米國向晒ニ付テハ(四)ノ點ヲ指摘セラルルト共ニ(三)ノ理由ニ依リ月數量(平均數量ニ非ス)五百萬ヲ超エシメサル從來ノ我方輸出自制ノ運用ヲ今後共見送ル様折角御

交渉相成リタシ尙將來ニ對スル米國業者ノ不安ヲ一掃シ彼等ノ運動ヲ鎮靜セシムル爲ニハ帝國政府ノ assurance トシテ前記諸事情特ニ(三)ノ數量ニ付米國政府ヨリ聲明ヲナスコト有效ナルヤニ認メラルルニ付テハ右併セテ米國側ト御協議相成度シ

(六)前記御交渉ノ先方ヘノ反響ニ付テハ特ニ御留意ノ上隨時狀況電報アリタシ
商務官ニ暗送アリタシ

331

昭和11年 4月28日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

對米綿布輸出問題に関する訓令の方針は実現
困難なる旨について

第一五一號

ワシントン 4月28日後発
本 省 4月29日前着

貴電第九四號及貴電第九六號ニ關シ(對米輸出綿布ニ關スル件)

申迄モナク本使トシテハ極力御訓示ノ趣旨ノ貫徹ニ努力ス

ヘキモ往電第一二一號米國側申出アリテヨリ二旬餘ヲ經過シ本省ヨリ何等同訓ニ接セサル間ニ選舉ヲ控ヘタル議會方面ノ壓迫益甚タシク且三月分數字ハ既ニ問題トナレル一、二兩月分ヲ超ユルコト判明シタル等ノ事情ニ促サレテ二十七日關稅委員會報告カ大統領ニ提出濟ナルコト及何時ニナク國務長官カ實質的會談ニ先チ原則問題ニテ本使ニ懇談スルコト等ニ依リ勿体ヲ附ケテ往電第一四七號ノ申出ヲ爲シ而モ十日ノ間ニ決定ヲ爲スノ必要アルヲ以テ「バーゲン」ノ餘地ナキコトヲ繰返シ居ル等ノ經緯ニ鑑ミルトキハ冒頭貴電御來示ノ通り申入ルハ果シテ說得シ得ヘキヤニ付多大ノ懸念ナキ能ハス而モ貴電ニ依レハ月五百萬ヲ超エシメストアルモ一年ヲ通シテノ數量ニ付テハ何等御言及ナキ處先方ニ於テ我方提議ニ依ル聲明ヲ爲スコトニ同意スルトスルモ此ノ點ハ必スヤ反問セラルルコトト豫期セラルルニ付テハ御訓示執行ニ先チ此ノ點承知致置度ク折返シ御回答ヲ仰ク

紐育商務官ヘ暗送セリ

332

昭和11年5月2日
在米国井上(豊次)大使館商務書記官より
有田外務大臣宛(電報)

対米綿布輸出問題に関し紳士協定により米国
政府を支援すべき旨の当地業者見解について

ニューヨーク 5月2日後発
本 省 5月3日前着

第二五號

在米大使發閣下宛電報第一四七號ニ關シ

一日本邦對米綿織物輸出協調會ヨリ當地輸入會宛電報ヲ以テ輸入商側ノ意見ヲ求メ來レルニ付同日本邦協調會員ノ紐育支店代表者ヲ以テ協議會ヲ開催本官モ之ニ參加シタル處大要左ノ如ク意見一致ヲ見タリ

一選舉ヲ控ヘタル米國政府ノ立場ヨリスレハ米國製造家ノ本邦綿布輸入防遏運動ヲ此ノ上抑ヘ難ク至急何等カノ措置ヲ執ラサルヲ得サル窮狀ニ在ルコトモ認メラルル故此ノ際本邦側カ自制ノミヲ主張スルコトハ大局ヨリ見テ面白カラス而シテ米國提案ノ中關稅引上ハ如何ナル程度ニテモ絶對不利ナルニ付事茲ニ到リテハ一時的ノ窮屈ヲ忍ビ飽迄モ紳士協定ニ依リ現政府ヲ助ケ將來ニ於ケル圓滿

対米綿布輸出制限問題に関する我が方讓歩案
に基づき交渉方訓令

本省 5月4日後8時発

第一〇一號

貴電第一五五號ニ關シ

一商務官來電第二五號ヲモ參酌協議ノ結果最後案トシテ左記ニ到達セリ

(イ)「ポルトリコ」向輸出ハ中南米輸出組合及其他業者ノ取扱ニ屬スル爲右ヲ米本國向輸出統制ノ規範下ニ置クハ統制實行上多大ノ困難ヲ伴フ次第ナルモ米國ノ立場ヲ考慮シ此點何トカ都合ヲツクルコトトシ兎モ角モ「ボ」除外ノ我方主張ヲ曲ケテ「ドロップ」スル一面、月最高限五百萬ノ自制案ニ代ヘ「ボ」ヲ含ム米國向晒ニ付本年四月以降一ケ年間ノ米國消費ノ爲ノ輸出數量ヲ四千萬方碼見當ニ制限ス(特ニ見當ト謂フハ米國實需カ右ニ達セサル場合ヲ考慮シタルモノニシテ右以上トナルコトナシ貴官御含迄)

(ロ)右制限ハ勿論米國品ト競争スル晒ノミニ限り且其制限方法ハ輿論ノ手前兩國間ノ數量協定トナスコト政府ト

解決ヲ計ルコト得策ナリ

ニ但シ米國提案ノ數量及其ノ他ノ條件ヲ其ノ儘ニ受ケ容ルル必要ナキヲ以テ品目ヲ主タル競争品晒綿布即チ稅番第九〇四ノb項ニ該當スルモノノミニ限ル

三、數量ハ過去ニ於テ日本綿布輸入ノ最大ナリシ昨年度ノ實績ノミヲ基礎トシテ三千六百四十四萬方碼ヲ提案シ來レルハ米國政府側カ「バーゲン」ノ餘地ヲ示ササル肚ナラシモノ客年八月公表セラレタル米國內綿業調查委員會ノ報告ニ於テ一九三五年中日本綿布輸入量トシテ豫想セラレタル四千二百萬方碼ニ比スレハ一割五分ノ開キアリ右ハ全ク本邦側ノ自制ノ結果ニシテ今後モ本邦側ノ自制並ニ晒綿布ノ需要狀況ヨリ見テ實際輸入量ハ四千萬ヲ超ユルカ如キコトナキ見込ナルヲ以テ本協定ノ實現ヲ可能ナラシムル爲寧ロ本邦綿業者ニ對スル「バーゲン」トシテ四千萬見當ニテ交渉スルコト有利ナルヘシ
米へ暗送セリ

333

昭和11年5月4日

有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

シテ困難ナルニ付形式ハ飽ク迄我方ノ一方的輸出自制トナシ實際上ハ我方ニ於テ鉛筆及「ラグラグ」ノ如キ協定品ト同様之カ取締方法ヲ講シ我方統計ニ依リ制限ノ完全ヲ期ス

(イ)尤モ一旦米國ニ輸入セラレ其儘再輸出セラルル晒ハ米國消費ト何等關係ナキニ付之ヲ右數量ヨリ除外スルコトト致度ク「ボ」向晒ハ主トシテ右ニ屬ス其方法トシテ米國政府ハ三ヶ月毎ニ右再輸出數量ヲ我方ニ通報シ我方ハ右通報ヲ待テ同數量ヲ追加ス

(ニ)對米晒ニハ總テ組合ノ證紙ヲ添付スヘク右證紙ナキモノニハ米國領事ニ於テ領事送狀ヲ發給セサルノ方法ニヨリ米國側ニ於テモ本邦輸出統制ニ協力セシメタシ
三、即チ右ニ依リ消費ノ爲米本國及「ボ」向輸出セラルル本邦晒ハ年四千萬ヲ超エサルコトナリ從テ將來ニ對スル米國業者ノ懸念ハ一掃セラルル次第ナレハ彼我貿易尻ヲ理由トスル業者ノ硬論ヲ押ヘ茲迄讓歩シタル本邦政府ノ苦心ヲ充分諒トシ米國側ニ於テモ關稅引上手段ニ訴フルコトナク右案受諾方極力御交渉アリタシ尙右案ハ此上讓歩ヲ困難トスル最后案ナリ貴官御含迄

商務官ニ轉電アリタシ

334 昭和11年5月5日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

対米綿布輸出制限問題に関する我が方議歩案
を米國側は受入れず交渉遷延の余地はない旨
について

ワシントン 5月5日後発
本 省 5月6日後着

第一五九號(至急、極秘)
貴電第一〇一號ニ關シ

御來示ノ次第ハ直ニ吉澤ヲシテ「ドーマン」ニ申入レシメ
タルカ其ノ際貴電一(ハ)前段ハ紐育商務官發貴大臣宛電報第
二五號ノ次第モアリ自制ハ稅番九〇四Bニ限ルコトヲ明カ
ニシ置キタル處五日「ド」ハ吉澤ノ來省ヲ求メ「セ」ト協
議ノ結果ナリト前置シテ昨日ノ日本側回答ハ本日國務長官
モ新シク加ハリテ慎重協議シタルカ其ノ結果ハ七日ノ閣議
ニ提出シタル上ニテ確カナルコトヲ申上クヘキモ其ノ後ノ
調査ノ結果昨年末消費輸入量三六、四四一、二九四中九〇四

レ度シト念ヲ押シ「ド」ハ「セ」ニ取次キ長官ヨリ閣議ニ
右ノ次第ヲ「リコメンド」スルコトトスヘシト約シタル趣
ナリ

從來本件交渉ハ彼我双方トモ輸入日本綿布ノ大部分ハ晒ナ
リトノ建前ニテ行ヒ來レル處精査ノ結果前記ノ數字判明シ
而シテ晒自制ノ結果トシテ其ノ他ノ品種ノ輸入増加ノ可能
性アリトスレハ既ニ多分ニ「ヒステリカル」トナレル輿論
ハ必スヤ既ニ比島問題ニ付紳士協定締結ノ腕前試驗濟ナリ
トスル國務省ヲ攻撃スヘク之ヲ當國現下ノ政情ニ顧ミルト
キハ本使ニ於テモ先方ノ言分モ尤ノ所アリト認メサルヲ得
ス今トナリテハ遺憾乍ラ此ノ上交渉遷延ノ餘地ナシト思考
セラルルニ付テハ七日ノ確答アリ次第關稅引上ヲ忍フヘキ
ヤ將又殘念乍ラ暫クハ先方要求通り自制スヘキヤニ付直ニ
應答シ得ル様御準備置ヲ請フ
紐育商務官へ暗送セリ

335 昭和11年5月6日 有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

來栖大使立寄りに際する米國國務長官等との

Bハ三〇、〇三八、三二ニシテ同Cハ六、三四五、六七〇
(其ノ外A少量アリ)ナルコト判明シタリ依テ假ニ日本側提
案ニ同意スルトキハ

(一)九〇四Bニ於テ約千萬ヲ増シ其ノ上ニCハ制限外ニ置カ
ルルヲ以テ昨年度ノ六百萬以上ニ未知數ノ増加ヲ豫測セ
サルヘカラサルコトナリ一方

(二)既製「ハンカチーフ」ノ輸入ノ増加スル惧アリ

(三)然ルカ故行政府トシテハ日本側提案ヲ其ノ儘取入レタル
協定ヲ「ジャステイファイ」スルニ苦シムヘシ

トノ結論ニ到達シタルヲ以テ

長官ハ閣議ニ於テハ敍上ノ理由ニ基キ日本側提案ハ之ヲ拒
否ノ已ムナキ旨ヲ述フルコトトナルヘシト極秘ノ含ヲ以テ
内報アリタルヲ以テ吉澤ハ右ノ趣ハ早速本省ニ電報スヘキ
モ七日ハ「セ」ノ申出アリタルヨリ十日目ニ當ル處當業者
ノ苦情ヲ抑ヘ難キヲ忍ンテ早目ニ昨日申入ノ最後案ヲ提出
シタル次第ナルニ七日ノ閣議決定ニ依リ右最後案ヲ受諾シ
得ストテ直ニ關稅引上ノ措置ヲ執ラルルニ於テハ政府ハ困
難ノ立場ニ置カルコトトナルヘキニ依リ斯ノ如キ措置ハ
右閣議決定ニ對スル日本政府ノ意思表示アル迄ハ差控ヘラ

日米通商問題に関する大局的見地からの会談

設定の是非具申方訓令

本省 5月6日後7時0分発

第一〇六號

來栖大使赴任ノ途次六月上旬貴地立寄ノ筈ナル處最近米國
側ハ國內當業者ノ策動ニ制セラレ頻々トシテ彼我貿易ノ大
局上我方ノ納得シ難キ申出ヲナシ來リ右ニ對シ貴大使初メ
館員一同ノ御努力ニ依リ今日迄ハ左シタル支障ヲ見サリシ
モ今后斯ル情勢ノ助長セラルヘキ傾向多分ニアルコト想察
ニ難カラス而シテ米國側ヲシテ日米通商關係ヲ今少シク大
局的見地ヨリ検討セシムル爲既ニ數次ニ亘リ貴大使ヨリ篤
ト我方所見ヲ先方ニ通シアル儀ナルモ此際過去數年我對外
通商事務ノ主管者タリシ同大使ノ貴地立寄ノ機會ニ先方ニ
對シ貴大使豫テノ御説明ヲ敷衍スルノ意味合ニテ率直ニ我
方最近ノ狀況及所見ヲ説明シ置クコトモ效果アルヘシト考
ヘラレ且右ニ依リ國務省ノ對内的苦境切抜ノ有力ナル材料
ヲ供シ得ル儀トモ思考ス若シ右ニ關シ貴大使ニ於テ御同感
ナルニ於テハ同大使貴地立寄ノ際委細御聽取ノ上「ハル」
長官其ノ他要路ニ引合方御配慮煩度キ處右ニ對スル貴見同

大使出發迄(十四日ノ豫定)ニ御回電アリタシ
商務官ニ轉電アリタシ

336 昭和11年5月7日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

來栖大使の米国立寄りに際する米國通商關係
要路との會談設定了解について

ワシントン 5月7日後発
本省 5月8日前着

第一六二號

貴電第一〇六號ニ關シ

來栖大使當地立寄ノ際當國通商政策關係ノ要路ニ對シテ本邦最近貿易進展ニ關聯スル諸問題ニ付實情ヲ説明セラルルコトハ豫テノ御訓令ニ基キ目下折角本使ニ於テ國務省當局ト話合中ナル日米通商關係調整ニ資スル所鮮カラサルヘク本使ノ最希望スル所ナリ就テハ充分ニ腹藏ナキ意見ノ交換ヲ遂ケ得ル爲同大使ニ於テ當地滞在豫定ニ充分ノ裕取ヲ存シ置カルル様御傳言ヲ請フ

ヲ示シテ米國側ニ説明セラルルト共ニ綿布ノ如キ特殊商品ニ付羊毛手袋ノ場合ト同様輿論一點張ニテ豫定ノ筋書ヲ押通スコトノ危險ナルコト竝右我方最終案ヲモ拒否スルニ於テハ業者側サヘ相當ノ決意ヲ固メ居ル今日日米通商關係ノ爲ニ面白カラサル事態ヲ惹起スルニ至ルノ惧アル次第ヲ力説セラレ應諾方極力御交渉アリタク先方ニ於テ右ヲモ拒否スル場合ハ最早何トモ致シ方ナシ
商務官ニ轉電アリタシ

338 昭和11年5月15日 有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

對米綿布輸出制限に関する米國側提案への我
が方対処方針につき訓令

本省 5月15日後8時15分発

第一二〇號

貴電第一七五號ニ關シ

一貴電第一七六號(一)ニ關シテハ我方ハ比島綿布協定カ先方統計ヲ基礎トシ問題ヲ起シタルニ鑑ミ(此點先方ニ説明ヲ要セス)且我方輸出自制ハ輸出主義ニ依ルニ非サレハ

337 昭和11年5月8日 有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

拒否の場合には日米通商關係に悪影響を与え
る旨を力説し對米綿布輸出制限問題我が方最
終讓歩案を応諾するよう米國側と交渉方訓令

本省 5月8日後8時発

第一一二號

貴電第一六四號ニ關シ

本邦側主張ニ何等歩寄リヲ示サス最後通牒的ニ二途何レカヲ擇フノ外ナシトスル米國側決定ニ對シテハ業者ニ於テ憤激シ直ニ先方提案ヲ一蹴シ對抗策ヲ講スヘシトノ論相當アリタルモ大局の見地ヨリ説得協議ノ結果制限品種ハ從來ノ主張通り晒ノミニ限ルモ制限數量ハ「ボ」ヲモ含メテ四月以降一ケ年間ニ付客年度米國消費輸入量三〇、〇三八トシ(再輸出除外ニ付テハ往電第一〇一號(ハ)ノ通り)輸出自制ヲナスコトニ同意セシメタリ大藏省統計ニ付御承知ノ通客年本邦對米綿布輸出ハ「ボ」ヲ含ミ合計五三、六〇四千方碼内晒四二、一二八ナルニ鑑ミ今后一ケ年ニ付晒ヲ約三千萬ニ制限セムトスル我方提案ハ窮極ノ讓歩ナルニ付右數字

之カ實行ヲ確保シ難キヲ以テ輸出ノ際ニ數量ヲ統制スル建前トシ本邦輸出業者ハ四月一日ヨリ一ケ年間客年米國消費輸入量ヲ超過セサル様輸出ノ統制ヲ爲ストノ趣旨ヲ明記スルコトト致度シ(尤モ右ノ外追加輸出ヲ爲スコトハノ通り)

ニ(イ)、(ニ)及(三)ニ關シ當業者ハ晒ニ付先方提示數ヲ無條件ニ承諾スル代リニセメテ九〇四Cニ付テハ數量少キ關係モアリ無條件ニ之ヲ制限外トスヘク右纏ラサレハ協定不成立モ已ムヲ得ストノ強硬意向ナルモ貴電第一六七號御請訓ノ次第モアリ關係省ニテ協議ノ結果往電第一一四號末段ノ通電報致シタル次第ナル處貴電第一七六號(三)ノ如キ強キ書振ヲナスニ於テハCカ昨年數字以上一碼ニテモ超ユルノ惧アル時(超エタル場合ト異ル)ハ米國ハ即刻關稅引上ヲ以テ我方ヲ威嚇シ得ルコトナリ我方ハ全綿布ヲ通シ結局米國當初ノ提案ヲ鵜呑ミニシタルト同一ノ結果トナルヘク此點ニ業者側ハ強ク反對シ居ル次第ナリ(ロ)就テハ政府ノ困難ナル立場竝ニ政府カ業者ノ主張ヲ押ヘテ協定ヲ成立セシムルニ苦慮シ居ル次第ヲ説明し晒以外ノ綿布カ客年數量ヲ超エ現實ニ米國産業ヲ脅威スル場合合米

國側ヨリ日本へ協議ヲナシ得ルコトハ兩國政府間口頭ノ
ミノ約束トシテ之ヲ外部ニ公表セサルコトトシ從テ協定
文面ニハ(二)及(三)ノ趣旨ヲ「ドロップ」シ何等九〇四Cノ
問題ニ觸レサル様致度シ(ハ)尤モ米國側カ輿論說得上是非
共Cニ言及方必要ナル旨主張スルニ於テハ「米國政府ハ
晒以外ノ綿布輸出ノ數量カ將來著シク増加シ米國綿業ヲ
脅威スルカ如キ事態ノ發生セサラムコトヲ希望スル」旨
ノ漠然タル趣旨ヲ記載スル程度ニ止メラレタシ

三(四)ハ貴電一七五號前段括弧内ノ通取計ハレ差支ナシ
四(再輸出數量ノ通報方ヲ米國へ要求セル趣旨ハ往電第一〇
七號中段説明ノ通り専ラ當方統制技術ト關聯スルモノニ
シテ即チ我方ハ最初業者ニ對シ三千萬ノ割當ヲナシ右ノ
中ヨリ再輸出セラレタル數量丈米國側ノ通報ヲ得テ追加
割當ヲナサハ一年ヲ通シ米國ノ消費輸入量ハ統制數量ヲ
超ヘサル點ヲ考慮セル結果ナル處貴電第一七六號(五)即チ
一旦輸入税ヲ拂ヒタルモノニシテ再輸出セラルモノハ
事實米國消費ト關係ナキニ付右ノ追加輸出ヲ認メシメ之
カ算出(可能ノ範圍ニ於テ)竝ニ通報方容認セシメラルル
ト共ニ往電第一一五號ノ(一)ニ相當スルモノ即チ保税倉庫

付本項モ我方ニ於テ應諾シ得ル限りニ非ス

六(往電第一〇一號(一)即チ組合ノ證紙ナキモノニ米國領
事カ査證ヲナササルノ點ニ付テハ何等言及ナキ處右協力
ナキニ於テハ第三國經由及「アウトサイダー」ノ出現ニ
依ル統制ノ攪亂ヲ防止シ得サルニ付此點文書ニ記載セシ
メラレタシ

七(前記諸點ニ付妥結ヲ見ルニ於テハ米國側ニ於テ一般二本
邦綿布(晒及晒以外ノ綿布)ニ對シ關稅引上ヲ爲ササル旨
ヲ約セシメ一項目トシテ文書中ニ記載セシメタシ
ハ、御如才ナキ事乍ラ協定若クハ公表文共樞密院等ノ關係
モアリ領事協定等御參照ノ上日本政府ニ於テ苟モ義務ヲ
負フカ如キ形トセサル様御留意アリタシ(本電「モ此趣
旨ニ出ツ」)

商務官ニ轉電アリタシ

339

昭和11年5月15日

有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

米國側が従来の主張を緩和しない限り今後の
対米綿布輸出入交渉は成行きに任せるしかない

ヨリ直接輸出セラルルモノ(此種物品ハ或ハ米國側ニテ
再輸出ト稱シ居ラサルヤモ知レス)相當量アル見込ニテ
又米國側ニテモ此種數量ナラハ容易ニ判明スヘキニ付我
方統制ニ協力スル意味ニテ之カ通報方確約ヲ取付ケラレ
度シ尙右ノ外日本輸出統計ト照合シ輸出制限數量ノ正確
ヲ期スル上ニ於テ必要ナルニ付米國統計ニ依ル毎月保税
倉庫在高、消費輸入數量及一般輸入數量通告方ヲモ併セ
テ文書中ニ記載セシメラレタシ

五(六)ニ關シ我方ハ貴電第一四七號先方説明ノ通り本件ハ大
統領選舉ヲ控ヘ全ク政治上ノ必要ニ出テタルモノト了解
シ居リ官民共選舉終了後ハ米國側ニ於テモ之カ緩和可能
ナルモノト信シ居ル次第ニシテ此種自由通商ノ例外的措
置ヲ二年ニ亘リ甘受スルカ如キハ容認シ得ス依テ(六)ハ一
年間有效ノ旨ヲ記シタル後經濟狀勢其他諸般ノ事情ヲ考
慮シ本諒解ノ繼續又ハ變更ヲ改メテ協議ストノ但書ヲ附
スルコトニ話合ハレ度ク次ニ(七)ニ關シ我方ハ輸出割當ノ
際昨年度我方輸出情勢ヲ參酌シ米國輸入ノ季節上ノ平均
化ニ努力スルコトニハ異議ナキモ保税倉庫ヨリ米國業者
カ隨時勝手ニ倉出スル數量ニ付テ迄責任ヲ取り得サルニ

との認識について

本省 5月15日後8時0分発

第一二一號(極秘)

往電第一二〇號ニ關シ

貴官段々ノ御努力ニ依リ本件ハ一應覺書起草迄進展シ來リ
タル次第ナルモ問題ノ難點ハ要スルニ我方カ「ボ」ヲ含ム
コト竝ニ晒ノ數量ニ關シ其條件ニ讓歩シタルニ不拘米國側
ニ於テ依然歩寄リヲ見セス晒以外ノモノニ付テモ執拗ニ
繁鎖ナル制限ヲ要求シ居ルノ點等ニ存シ此際往電第一二〇
號ノ「ライン」ニ依リ先方ヲ更ニ説得方今一應貴官最善ノ
御努力ヲ煩度キ次第ナル處業者ノ主張並ニ一般輿論(十四
日衆議院本會議ニ於ケル質問及十五日日々論說ハ本件交渉
ヲ以テ極メテ軟弱ナリト批難ス)ニ鑑ミ此上トモ米國側カ
關稅委員會報告書ヲ楯ニ從來ノ主張ヲ緩和セサル限り本件
ハ最早成行ニ委スルノ外ナキヤニ認メラル貴官御含迄
商務官ニ轉電アリタシ

340

昭和11年5月15日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

米国政府側の譲歩も認められるため対米綿布
輸出問題に関する日米間協議覚書案文に同意
方請訓

別電 五月十五日発在米国斎藤大使より有田外務大臣

宛第一八四号

右日米間協議覚書案文

ワシントン 5月15日後発

本省 5月16日後着

第一八三號(大至急)

貴電第一二〇號接到ト共ニ吉澤國務省ニ赴キ「ド」ニ經濟顧問部「ビーチ」及「フオックス」ヲ加ヘテ協議ノ結果一應別電第一八四號ノ通ノ案文ヲ得我方ハ直ニ請訓シ先方モ「セ」ニ報告スルコトナリタルカ其ノ經緯左ノ通

「貴電」ノ御趣旨ニ依リ舊「一」ヲ新「一」ノ如ク書改ム(舊「一」ハ舊案文(往電第一七六號)第一項、新「一」ハ新案文第一項、以下之ニ倣フ)

ニ新「二」ハ舊「七」ヲ書改メタルモノナルカ本項ニ付テハ貴電五後段ノ御趣旨ヲ説明シテ削除ヲ主張シタルカ往電第一六五號ノ經緯ニ依リスノ如ク「フ」ニ於テ頑強ニ固執シ議

トアリ此ノ點ニ付テハ香港積換ノ苦キ經驗モアリ充分ニ理解ハスルモ如何トモ爲シ難シトテ

新「七」ノ案文ニ折合ヒタルカ右末尾ニ「イフ、プラクチカブル」トアルハ米國法規上數量ハ差支ナキモ輸出入ノ名ヲ通報シ得ルヤハ調査ノ要アルカ故ナル由ナリ

ハ、舊「二」及舊「三」ハ貴電「二」(イ)及「三」御來示ニ基キ之ヲ「ドロツプ」シ其ノ代リ新聞公表文案中ニ別電第一八五號^(略)ノ趣旨ヲ加フルコトセリ

以上ハ訓令ノ趣旨ヲ全部貫徹シ得タル次第第二ハアラサルモ先方ニ於テモ譲リ得ル限リヲ譲リタルモノト認メラルル處今日會談ノ際先方係官ハ口ヲ揃ヘテ各方面ノ督促嚴シキ事情ニ鑑ミ(殊ニ報告書カ大統領ノ手許ニ廻付セラレ居ルコトヲ知レル向ヨリ白聖館宛何時「プロクラメーション」出ツヘキヤトノ問合頻々タル由)幸ニシテ右案文ニ付御同意ヲ得ルニ於テハ十六日中ニ「イニシアル」ノ運ト致度キ旨希望シ居リタル趣ナルニ付テハ右御含ノ上成ルヘク十六日朝迄ニ御同電ヲ請フ

本電別電ト共ニ紐育商務官ヘ轉電セリ

論ノ末我方ニ於テ輸入ノ片寄ラサル様輸出ノ際統制スヘシトノ趣旨ニ改メタル次第ナリ

三、新「三」ハ貴電四後半ヲ記述シタルモノナルカ前半ニ基ク當方申出ニ對シテハ往電第一七七號ノ説明ヲ繰返シ戻稅ニ依ル再輸出ノ算出及通報ヲ容認セス依テ「五」ハ之ヲ削除シテ新「三」ヲ挿入スルコトセリ

四、新「四」ハ貴電七ニ基クモノナルカ先方ハ當方統制カ晒ノミナルヲ以テ晒以外ニ付約束スルコトヲ應諾セス

五、新「五」ハ「四」ヲ書改メタルモノナリ

六、貴電五前半御來示ノ次第ヲ指摘シタルニ對シ先方ハ選舉ノ結果ハ「ル」大統領ノ再選ヲ見ルヘシト雖議會ノ分野カ如何ナルヘキカハ豫測ヲ許サス共和黨多數トナル可能性充分アリ然ル場合ニハ現在ノ條件ニテ協定ヲ成立セシメ置キタルノ賢明ナリシコトヲ悟ルコトナシトセスト述ヘ當方ハ貴電第一二一號御來示ニ基キ輿論硬化ノ情勢ヲ述フル等押問答ノ末新「六」ノ案文ニ落着キタル次第ナリ
七、貴電六ノ點ヲ提議シタルニ對シ米國領事ハ法律上ノ根據ナキ限り査證ヲ拒ムコトヲ得ス現ニ最近陶器ノ査證ニ付在名古屋領事ノ執リタル措置ニ付苦情ヲ持込マレタルコ

(別電)

ワシントン 5月15日後発

本省 5月16日後着

第一八四號

1. Japanese Ambassador stated that he was instructed by his Government to inform the American Government that there had been formed last year an Association of Japanese Exporters of Cotton Piece Goods to United States, and that association will, for a period of twelve months beginning April 1, 1936, regulates shipments from Japan of cotton textiles classified under Paragraph 904-B of the Tariff Act of United States in such manner that imports for consumption into United States during such period shall not exceed the amount imported during 1935, namely 30, 041, 422 square yards.

2. Japanese Ambassador said that Japanese Government has been assured by Japanese Cotton Exporter's Association that shipments will be so controlled as to avoid undue concentration in any one quarter.

3. ⁽²⁾ Japanese Ambassador said that Japanese Government would request American Government to supply monthly, for Paragraph 904-B of United States Tariff Act, statistics of general imports (actual arrivals) and imports entered for immediate consumption, entered into warehouse, withdrawn from warehouse for consumption, withdrawn from warehouse for export, total imports for consumption and stocks in warehouse at end of month. Mr. Sayre replied that he would be glad to have arrangements made so that these data will be made available to Japanese Ambassador as soon as they have been compiled by the authorities concerned. He expected that figures would be furnished Japanese Ambassador on /or about the twentieth day of the month following the month to which the figures are applicable.

4. Mr. Sayre stated that he was glad to obtain an assurance from Japanese Government that the Exporter's Association would undertake to regulate shipments from Japan of cotton textiles classified under Paragraph

904-B of Tariff Act. He was authorized on behalf of American Government to assure Japanese Ambassador that, so long as the terms of the undertaking are carried out American Government would not by administrative action, increase the duties on textiles classified under Paragraph 904-B of Tariff Act of impose other restrictions upon such imports. ^(or #)

5. ⁽³⁾ Mr. Sayre pointed out that the arrangement under contemplation would not cover imports from Japan of manufactured handkerchiefs, which are classified under Paragraph 918 of Tariff Act. He expressed the hope, nevertheless, that no occasion would arise, by reason of excessive imports from Japan, for giving consideration to the problem of the competition offered by Japanese manufactured handkerchiefs.

6. Mr. Sayre observed that the assurance offered on behalf of Japanese Cotton Exporter's Association by Japanese Ambassador would run for a period of only one year beginning April 1, 1936. Japanese Ambassador

and Mr. Sayre expressed the hope that the arrangement would effectively dispose of the problem arising out of Japanese competition in cotton bleached goods during that period of time and that a similar arrangement could be continued for a second year. It was agreed that in connection with consideration of extension of the agreement for a second year the terms of the agreement should be reconsidered in the light of changes in economic conditions.

7. ⁽⁴⁾ Japanese Ambassador stated that exporter's association would, for the purpose of exercising control, issue permits for shipments of cotton cloths dutiable under paragraph 904-B to United States. He then inquired whether American consuls in Japan could be directed to cooperate with the association by refusing certification of invoices covering goods which are not accompanied by such export permits. Mr. Sayre replied that unfortunately there was no provision in law by which consuls could refuse such certification. He pointed out, how-

ever, that he would have instructions issued to American consuls in Japan to report to Department of State the names of shippers and quantities of goods exported to United States which are not covered by such export permits, and that if practicable such information would be transmitted to Japanese Government.

341 昭和11年5月19日 有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

対米綿布輸出問題に関する日米間協議覚書案
文への我が方修正点および輸出統制には米国の
協力が必要である並に云々

本省 5月19日午後8時15分発

第一二七號(全急)
貴電第一八九號ニ關シ
「十九日東京ノ業者ト協議ノ結果貴電第一八四號案ニ左記
修正ヲ加フルコトヲ致度」
(イ)往電第一二〇號「ノ輸出主義ヲ明確ニスルノ意味ニテ
第一項末段 in such manner that へ次 へ export

from Japan トス

(ロ)第二項ハ前記往電云末段ニ依リ我方ニ於テ責任ヲトリ得サルコト米國側ニテモ了解ノ筈ニ付適當ノ箇所ニ as far as practicable ト云フカ如キ字句挿入アリタシ

(ハ)第五項即チ既製「ハンカチ」ノ問題ハ前記往電^(ロ)申進メノ通り「イニシヤル」ノ際先方ヨリノ口頭ノ希望ニ止メシメ度シ

(ニ)第七項ニ付テハ我方ハ輸出主義ニ依リ統制ヲナス以上對米晒ニハ總テ證紙ヲ附シ(從テ證紙ナキモノハ統制數量中ニ加ヘス)責任ヲ以テ統制數量ノ正確ヲ期スル方針ニシテ第三國經由品及「アウトサイダー」ノ輸出品ニ付テハ我方トシテハ統制技術上如何トモ爲シ難ク之ヲ取締ニ付テハ米國側ノ協力ヲ得ル以外ニ方法ナシ從テ右ニ付在本邦米國領事ニ於テ協力ヲナスコト不可能トセハ殘サレタル唯一ノ道ハ證紙ナキ晒ニ付米國稅關ニ於ケル輸入拒絶方ヲ中央ヨリ指令セシムルノ外ナキニ付右協力ヲ取付ケ第七項ニ記入方御交渉アリタシ(證紙ナキモノヲ米國側カ勝手ニ數量中ニ加フニ於テ

成立ニ多少トモ熱意ヲ有スルナラハ我方ノ大讓歩ト合理的ナル主張ニ對シ今少シ耳ヲ傾クルコト當然カト思考セラル

三就テハ貴電第一九四號ノ事情ハアルモ我方意嚮並ニ政府ノ並タナラヌ苦心篤ト先方ニ御説明ノ上前記主張貫徹方極力御努力相成リ結果折返シ同電アリタシ

商務官ニ暗送アリタシ

342

昭和11年5月19日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

米國側の協力なくしては統制不可能との主張
を取る限り協定成立の見込みない旨について

ワシントン 5月19日夜発
本 省 5月20日後着

第二〇二號(至急)

貴電第一二七號ニ關シ

吉澤「ド」會談ノ結果左ノ通

「ド」ハ米國側ノ期スル所ハ消費輸入量カ三千萬ヲ超エサルコトニアルヲ以テ用語公文ノ如何ハ問フ所ニアラサ

ハ本邦業者中統制ニ服シタル者ハ損失ヲ蒙リ徒ニ統制外輸出ヲ促進スル結果我方輸出統制自体ヲ全然不可能ナラシムルニ至ルヲ以テ此點ハ我方カ統制能不能ノ問題トシテ重視スル所ナルニ付テハ米國側カ萬一稅關ノ協力ヲモ拒絶スル場合ニハ米國側ヨリ當方輸出主義ト相反セサル何等有效ナル具体案提出方要求セラレタシ

(ホ)貴電第一八五號新聞公表文中 will not be made... quantities トアルハ我方ノ人爲的制限ノ意味ニトラレ業者ニ對スル政府ノ立場ヲ失フニ付例ヘハ will not excessively increase ト云フカ如キ書振トナシ且右ハ米國政府カ國內政策上一方的ニ公表スル立前ト致シタシ

ニ、貴電第一九四號ハ前記官民協議後接到シタル處我方ハ今日迄強硬ナル業者ヲ説得シ讓レル丈讓リタル次第ニテ前記ハ修正ノ程度ナラハ米國政府ノ業者ニ對スル面目モ十二分ニ立ツモノト思考セラルルニ付テハ米國側カ最初ヨリ不可能ヲ強ヒ(殊ニ前記(ロ)及(ニ)ニ對スル米國主張)故意ニ協定ヲ成立セシメサル豫定方針ナラハ兎モ苟モ協定

ルモ若シ貴電一(往電)ノ意味ニシテ... export from Japan ヲ imports for consumption ニ置換フルニアリトスレハ四月一日現在在庫數量ハ除外セラルコトナルヲ以テ(尙此ノ外ニ嚴密ニ言ヘハ日本ヨリノ輸出ノ時ト實際消費輸入ノ時トノ差異ヨリ生スル數量ノ相違及後述第七項ノ問題ヨリ生スル統計ノ及ハサル輸(入)數量モ除外セラル)受諾ノ餘地ナシト述ヘタルカ吉澤ハ從來ノ經緯ニ鑑ミ消費輸入量三千萬ニハ同意ヲ與ヘタルコトニモアリ若シ輸出額ヲ明カニスルノミノ意義ナラハ will regulate shipment (之ハ exports トスルモ可) from Japan トアルコトニ依リ充分ナルヤニモ思考シタルヲ以テ次ノ第二項及第五項ヲ書物ヨリ除外スルコトヲ條件トシテ本省ノ再考ヲ求ムルコトトス

ニ、貴電(ロ)ハ結局之ヲ記載セス同(ハ)ト同様會談中ニ口頭ヲ以テ言及スルコトトシ別電第二〇三號^(省電)ノ如キ案文ノ「プレスリリース」ヲ爲スコトトセリ

三、貴電(ニ)ニ付テハ先方ニ於テモ充分我方ノ困難ヲ了解スルモ稅關ノ協力モ領事ノ査證拒絶ト同様法律上不可能ニシテ其ノ他ノ具體案ニ付テモ日本政府ノ満足ヲ得ルカ如

キモノヲ提出シ得ス抑々比島協定ノ場合ニハ日本側ハ輸出組合法ヲ適用シテ取締ヲ爲シタルニ今回ノ場合モ同様ノ措置ニ出テラレ間敷キヤト反問シタルヲ以テ吉澤ハ本件統制ニ付テハ昨年来既存ノ協調會ヲシテ之ニ當ラシメタル行懸上別(一)組合ヲ組織セサリシモノナルヘク何レニシテモ差迫レル今日斯ノ如キ問題ヲ起ス餘地ナク又我方ハ枉ケテ統制中ニ加ヘタル「ポ」向輸出ハ中南米向輸出ニ從事シ從ツテ假令組合法ニ依ル機關結成ノ場合モ之ニ入ラサルヘキモノニ依リテ行ハルルヤモ知レスト一應ノ説明ヲ爲シ議論ヲ重ネタル後同項末尾ニ the American Government will further explore other means by which it may be possible to cooperate with the Japanese Government with a view to effective regulation being exercised by the exporter's association ノ一句ヲ追加スルコトセリ

尙吉澤ハ「米國政府ハ領事カ日本政府ノ希望スルカ如キ協力ヲ與ヘ得サルコトヨリ生スル統制上ノ困難ヲ認メ云々」トノ趣旨ヲ書キ加ヘシメントシテ努力シタルモ「ド」ハ斯テハ大統領ニ於テ日本側ノ統制力不十分ナル

コトヲ知りナカラ協定ヲ結ビタルコトヲ非難セラルヘキヲ以テ到底受諾スルコトヲ得ス輸出組合法ノ下ニ統制セラレタル比島協定サヘ其ノ後問題續出シタルニ鑑ミ若シ日本側ノ統制機關カスノ如キ性質ノモノナルコト當初ヨリ明カナリシナランニハ米國側ニ於テモ明確ナル態度ヲ示スヘカリシ筈ナリ米國側ハ決シテ協定ヲ不成立ニ終ラシムルコトヲ望ムモノニアラサルモ此ノ點ニ付テハ遺憾ナカラ日本側ノ御希望ヲ容ルルノ餘地ナキニ付テハ果シテ日本政府ハ此ノ點ニ關スル主張ヲ……Sine qua nonト爲サルルヤ否ヤ承知シ度シト述ヘタルニ依リ吉澤ハ此ノ點更メテ請訓スルコトセリ

四(4) 貴電(ハ)同(ハ)ト共ニ別電第二〇三號ノ通ノ案文トスルコトセリ

五 最後ニ「ド」ハ昨日ノ御申入(貴電第二二五號)ニ基キ自分ハ「セ」ノ出發前第二項及第七項ニ付困難アルコトヲ豫告シ置キタルカ今日ノ御申入ハ第一項及第五項ニ亘リ自分トシテハ以上ノ修正モ難キヲ忍ンテ同意スル次第ニシテ尙本件案文ハ御承知ノ通ノ經緯ニテ大統領ノ閱覽ニモ供シタルモノナル事情ハ充分御諒察ヲ請ハサルヲ得ス

ト述ヘタル趣ナリ

敍上ノ次第二テ前記四ノ點ニ付米國側ノ協力ナキ限り統制不可能ナリト主張スルニ於テハ協定成立ノ見込ナク尙其他ノ點ニ付テモ此ノ上辭句變更ノ餘裕ナキ次第ナルニ付テハ右御含ノ上二十日朝迄ニ敍上ノ修正ニテ書物ニ「イニシャル」シテ差支ナキヤ否ヤ御同電ヲ仰ク

尙別電第二〇三號ニ付テモ此ノ上變更ノ餘地ナキ處此ノ方ハ米國政府ノ一方的措置ナルヲ以テ左シテ重キヲ置ク要ナルヘシト存セララル

本電別電ト共ニ紐育商務官ヘ轉電セリ

343

昭和11年5月21日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

東京との電話連絡に基づき交渉継続の余地な

き旨米國側へ通知について

付記 作成日、作成局課不明

「日本晒綿布對米輸出統制ニ關スル件」

ワシントン 5月21日後発

本 省 5月22日前着

第二一二號

貴電第一二八號ニ關シ

御來示ノ次第本使ヨリ國務次官ニ申入レタル處次官ハ困惑ノ面持ニテ延期ニ依リテ纏マル望アリヤ御承知ノ通り米國側トシテハ此ノ上如何トモ爲シ難キ情勢ニアルヲ以テ成立ノ見込ナキ限り大統領ニ御申出ノ次第ヲ取次クニ困難ヲ感スル次第ナリト述ヘタルカ(貴電冒頭ノ次第アルモ米國側ノ焦リ居ルハ協定其ノモノノ性質ニ依ルニアラスシテ全ク政治的ノ理由ニ出ツルコト累次往電報告ノ通ナリ)本使ハ勿論望アリト言フコトヲ得ス左リトテ往電第二〇二號「米國側ヨリ sine qua non ナリヤト」質問ニ對スル御意嚮貴電中ニ御來示ナキヲ以テ望ナシト言切ルコトモ出來ス依テ後刻東京時間ノ執務時刻トナル頃ヲ見計ヒテ本省ニ無電通話ヲ試ムヘシト述ヘタルニ

次官ハ右ニテ日本側ノ御意嚮判明スルニ於テハ十二時前即チ二十日中ニ打切カ又ハ有望ナルカニ付大統領ニ報告シ得ヘク好都合ナルヲ以テ是非左様願度キカ自分トシテ成立ヲ希望ストノコトニテ電話シタル處二回ニ亘リテ通商局長及土田課長ト通話ノ結果東京ニ於ケル諸般ノ事情判明シタル

カ日本側カ誠意統制ヲ敢行スル以上其ノ及ハサル所ハ米國側カ協力スヘキコト當然ノ儀ナルモ憲法上如何トモ爲シ難シト云フニ於テハ此ノ上交渉繼續ノ餘地ナキヲ以テ(其ノ他ノ方法ヲ探究ス)ノ一句ヲ挿入シタルハ協定成立ノ上ハ實施ニ從ヒ何等適當ノ方法ヲ見出スヤモ知レストノ意味合ニテ差當リ具體案アラサルコトハ當初ヨリ明カナリシ所ナリ(十二時ニ先立チ吉澤ヲシテ「ド」ニ右ノ趣電話セシメタリ

紐育商務官へ暗送セリ

(付記)

日本晒綿布對米輸出統制ニ關スル件

(欄外記入) 在米齋藤大使來電第二〇四號ヲ以テ前觸アリタル電話五月二十一日午前九時華府ヨリ通話アリ、松嶋通商局長ニ於テ之ヲ聽取シタリ。

先ツ齋藤大使ヨリ往電第一二八號ヲ米國側ニ申入レタル處本件協定案ヲ既ニ大統領ニ同附濟ナル今日前記訓令ノ趣旨ヲ大統領ニ通スル事ニハ國務省ニ於テ頗ル困惑セル模様ナリト説明アリタル後吉澤參事官ヨリ當方ノ意向ニ

斯ノ如キ結果ヲ豫想シツツ統制ノ約束ハナシ得サル處ナリ又翻ツテ米國側ヨリミルモ不完全ナル統制ノ下ニ於テハ第三國經由品及「アウトサイダー」輸出品ノ輸入アリテ甚不利ナル結果ヲ齋スヘキコト極メテ明ナル次第ナルニ付夫ヲ知りツツ「イニシアル」ヲナサントスル米國側ノ態度ハ當方ニ於テ了解シ難キ處ナリ、要スルニ協力ノ點ハ苟モ我方ニ於テ統制ヲナス旨ノ約束ヲ與フルニ付テノ必須條件(Sine qua non)ナリ。尤モ貴電第二〇二號ニアル如ク他ノ協力方法ヲ米國側ヨリ提案アルニ於テハ之ヲ考慮スルニ吝ナラサル事往電(第一二八號)申進ノ通りナリ。

(二) 次ニ輸出主義ヲ主張スルハ日本側ニ於テ統制ヲ行フ建前上當然ノ事ナルノミナラス右主義ニ依ラサレハ統制數量ノ正確ハ到底之ヲ期シ難シ即チ米國輸入商人カ保税倉庫ニアルモノヲ自由ニ引出ス事ニマテ日本側トシテ責任ヲ負ヒ得サルハ自明ノ理ニシテ從ツテ當方トシテハ本年四月一日以後一ケ年間に於テ三千萬平方碼ヲ輸出スル建前ト致シ度キ次第ナリ。

(三) 最後ニ公表文ノ内容ニ付テ當方トシテ承服ヲ困難トス

付説明ヲ求メタルニ對シ同局長ヨリ輸出統制ニ付キ米國側ノ協力ヲ得ル事不可能ナリトセハ我方トシテ中途半端ノ統制實行ヲ約スル譯ニハ行カス尙コノ點以外輸出主義採用ノ點及公表文ノ内容ニ付テモ我方ニ意見アリ從テ二十日中ニ「イニシアル」シタシトノ米國側希望ニハ遺憾ナカラ應スル能ハサル旨ヲ説明シタル處、吉澤參事官ハ國務省側ハ二十一日正子ニ大統領ニ最終報告ヲナス事トナリ居レルニ付二十日午后十一時(東京時間二十一日午后一時)ニ本邦側ノ最後ノ腹ヲ電話アリタシト述ヘテ通話ヲ打切りタリ。

三、二十一日午前土田通商局第二課長ニ於テ商工省貿易局乘杉貿易課長ノ來訪ヲ求メ同課長ト最終的協議ヲ行ヒタル結果ニ基キ午后一時土田ヨリ電話ヲ以テ吉澤參事官ニ對シ

(一) 本邦側輸出統制ニ對スル米國側協力ノ點カ未タ確定ニ至ラサルコノ際「イニシアル」ヲシテ一種ノ約束トスルニ於テハ日本側ノ立場トシテハ完全ナル實行ヲ期シ難キ統制ヲ引受クル事トナリソノ結果ハ必スヤ比島問題ノ場合ニ於ルカ如ク米國側ノ苦情ヲ受クル事トナリ

ル點數ヶ所アルモ米國側ノ國內政策上一方の發表ノ建前ナルニ付特ニ寛大ナル態度ヲトリ右數點ニハコノ際異議ヲ云ハサルコトトスヘシ、但シ本公表文ハ何處迄モ我方ノ關知スル處ニ非ス從ツテ我方ハ本公表文ニ何等拘束サレス、右ノ立場ハ適當ノ機會ニ是非共米國側ニ明確ニ申入置カレタシ。

ト述ヘタル處吉澤參事官ハ

(一) 米國側ニ於テハ要スルニ消費輸入量カ一ケ年三千萬方碼ヲ超ヘサルニ於テハ夫ニテ何等ノ苦情ナキ次第ナリ、輸入セラルル日本晒綿布カ何人ニヨリ何處ヨリ來ルヤノ問題ニ付テハ何等ノ「インタレスト」ヲモ有セストノ立場ヲトリ居リ當方ヨリ本省ノ意向ヲ体シ如何ニ協力ヲ求ムルモ既ニ法律上協力ノ手段ナシト言明シ居ル次第ニテ此ノ上如何ニ說得ヲ試ミルモ無駄ナルヘク、他ノ方法ヲ考究スト云フモ適當ナル手段有様皆無し從ツテ日本側ニ於テ協力ノ點ヲ必須條件(Sine qua non)ナリト明言スルニ於テハ本件話合ハ夫ニテ打切トスル外ナシ、從ツテ輸出主義乃至公表文ノ事ニ付テ最早先方ニ話合フ必要ナルヘシト述ヘタルヲ以テ土

田ヨリ右ノ通り取計ラハレソノ結果ハ成行ニ委ス外ナク、本邦側關係方面ハ總テソノ方針ニ一致シ居レリト明言シオキタリ、

(二)尙吉澤參事官ヨリ本件ニ付テハ何故ニ輸出組合ヲ設置セサルヤト問ヒタルニ付土田ヨリ日米間貿易ノ關係等モアリ將又英帝國領トノ通商交渉トノ關係モアリ元來今般ノ自制要求ニ對シテハ政府トシテ進ンテ之ニ應スル立場ニ非ス、只關係當業者ニ於テ自制ヲ行ヒ多少ナリトモ輸出ノ途ヲ確保シ置キタシトノ希望アリタルヲ以テ最近ノ話合ヲ行ヒタル次第ニテ即チ政府卒先統制ヲナス立場ニハナキ次第ナルヲ以テ組合ヲ設置シ第九條ヲ發動シテ「アウトサイダー」ノ取締ヲ行フ迄ノ熱意ヲ有セス假リニ輸出組合成立シ第九條ヲ以テ「アウトサイダー」取締ノ實ヲ擧ケ得タリトスルモ尙第三國經由品ニツイテハ本邦側ニテ何等ノ取締手段ヲ有セサル次第ヲ説明シ置キタリ。

(欄外記入)

五月二十一日

「對米通商交渉方針案」

ワシントン 6月12日後発
本 省 6月13日前着

第二四〇號
來栖大使ヨリ

通商問題ニ關シ國務長官、「フイリツプ」次官、「セイヤー」次官補及係官ト會談シタルカ從來大使及館員ノ説明充分徹底シ居リタルト大局論トシテハ双方同意見ナルカ爲何等格別ノ議論ヲ生セス國務長官ハ米國ノ通商障礙排撃運動ニ對シ日本モ「アツシスト」セラレ度キ旨ヲ述ヘ「セ」ハ中南米方面駐在ノ米國代表者ニ對シ二國貿易均衡論カ米國ノ政策ニアラサル旨ヲ訓令スルト共ニ同方面米國商人ニハ直接戒告セル旨ヲ内話シ居タルカ要スルニ問題ハ理論ニアラスシテ兩國内政ノ事情ヲ考慮シ如何ニ之ヲ實現スヘキヤノ點ニ存スルヲ以テ本使ヨリ本邦經濟ノ外國貿易ニ對スル依存程度、本邦通商ノ困難、出超國ノ買増要求、輸出狀況及是等諸國ニ對スル通商制限除去交渉上米國ノ如キ入超國ノ邦品輸入阻止手段ハ内容ノ大小ニ關セス本邦側ノ特ニ苦痛トスル所ナルヲ説明シ不幸ニシテ邦品輸出市場ノ大縮減

344

昭和11年5月21日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

米國大統領の綿布関税引上げ命令発出について

ワシントン 5月21日後発
本 省 5月22日前着

第二二三號

往電第二一二號ニ關シ

二十一日大統領ハ稅番九〇四ノB及Cニ對シ現行稅率ノ四二%文ケ引上クル旨ノ命令ヲ發シタルカ右ハ六月二十日發効ノ筈不取敢

紐育商務官ヘ轉電セリ

345

昭和11年6月12日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商問題に関する來栖大使と米國國務長官等との會談概要について

付記 作成日不明、通商局第三課作成

ヲ見ルカ如キコトアルニ於テハ報復ヲ云爲スル迄モナク我國ノ米棉輸入ノ如キモ漸次減退ヲ免レサルヘキヲ力說シタルカ先方トシテハ現政府カ本邦綿布問題ニ關シ昨春以來一部強硬ニシテ且政治上有力ナル背景ヲ有スル民論ヲ抑ヘ既ニ關稅委員會審議決定後ニ於テモ法規上多少ノ無理ヲ敢テシ大統領ノ決裁ヲ二、三週間引延シ只管圓滿妥結ニ努メタル事情及

其ノ間大統領トシテハ解決遷延本邦綿布輸入激増ノ爲「ニユーイングランド」方面與黨上院議員ノ政治上ノ支持ヲ喪失セル經緯並ニ關稅委員會ニ苦情申告アリタル本邦品約二百品目中僅ニ七、八品ノミヲ問題トシ居ル實情ヲ述ヘ頻リニ苦衷ヲ訴ヘ居ルカ如キ實情ナリ從テ此ノ際本邦側カ斷然對抗手段ニ出テ勞資兩方面ニ亘リ論爭ノ好題目タルヘキ本邦品輸入問題ヲ米國政戰ノ渦中ニ投セサルヘカラサル程ノ急迫セル事情ヲ有ストアラハ格別然ラサル限り徒ニ米國仲介業者ノ好餌トナリツツアル現在ノ無統制矯正ノ方法ヲ講シタル上ニテ交渉ヲ進メ本邦品ノ健全ナル進出ヲ圖ルヲ得策ト思考セルニ付「セ」ト會談ノ際試案トシテ日米共同ニテ委員會様ノ機關ヲ作り邦品安賣、關稅引上ノ宣傳、本邦

側實急キ、輸入激増、制限實施ト云フカ如キ從來ノ不幸ナル段取ヲ繰返ササル様適當ナル對策ヲ攻究セシムルヲ適當ト信スル旨述ヘ置キタルヲ以テ大使館、國務省双方係官協議ノ上具體案作成方依頼シ置キタリ本使十一日出發紐育ニ向ヒ十六日迄滞在ノ豫定ニ付何等御異議アラハ至急同地宛電報アリ度シ

尙石油業法、自動車業法ニ關シテモ論議シタルモ右ニ關シテハ紐育關係者トモ會談ノ上何分ノ儀電報スヘシ
在紐育商務官ヘ暗送セリ

(付記)

對米通商交渉方針案

(欄外記入)
第一、左記事項ヲ米國國務長官ニ説述シ之ヲ米國新聞紙等ニ發表シ國際關係ニ關心寡キ米國民ノ蒙ラ啓クコトト致度シ

一、我國ノ對外貿易中輸出入共米國ハ第一位ヲ占メ對米貿易ノ消長ハ我國ノ利害休戚ニ至大ノ影響アルコト

二、我國ハ米國ニ對シ常ニ入超關係ニアルコト

三、日米間産業ノ分布宜敷シキヲ得兩國間ノ貿易進展ハ双

(イ)米國內産業保護ノ必要上邦品ノ對米輸出ヲ統制スルノ已ムナキ事情發生スルトキハ米國政府ハ從來通り事前ニ我方ニ通知スルコト

(ロ)國內産業保護ノ限度ヲ明瞭ニシ少クトモ米國內ノ生産力國內全需要ノ五割以上ヲ現ニ充足シ居ルノ事實アルコト

(ハ)イノ通告アルトキハ日米關係業者ヨリナル委員會(紐育ニ設置)ニ附議シ其ノ實情ヲ調査セシメタル上我方ニ對シ執ルヘキ措置ヲ報告セシムルコト

(ニ)右報告ニ基キ我方ノ執ルヘキ措置ハ出來得ル限り本邦關係業者ヲシテ之ニ當ラシメ右不可能ナル場合初メテ日本政府ニ於テ強制的ニ實施セシムルコト

(ホ)現在我方ノ實施シ居ル鉛筆、綿數物等ノ對米自制ハ其儘繼續スルモ差支ナキコト

三、日米貿易カ過去數年間ノ平均比率ヲ維持シ居ル限り(過去三ヶ年ノ平均ハ一對一、五ナリ)米國側ハ我方ニ對シ何等ノ制限措置ヲ申出テサルコト
若シ右比率ヲ超エテ我對米輸出増加セルトキ初メテ米國側ハ一ノ(ロ)以下ノ方法ニテ之カ調整ヲ計ルコト

方ニ利益ヲ齎スコト

四、日本ト北米及中南米ノ三角貿易調整(訓電濟)

五、人口過剩國土狹隘ナル我國トシテハ對外貿易ニ依リ國富ヲ維持スル外ナク殊ニ對米貿易ハ其ノ中核タルコト
第二、左記事項ヲ申入レ米國政府當局ノ同意ヲ求ムルコトト致度シ

一、(一)日米兩國政府ハ兩國間ニ存續スル通商ニ關スル諸條約及通商自由ノ原則ヲ尊重シ相互ニ通商障礙ノ除去ニ努力スルコト

(二)近年米國內製造業ノ要望ニ基キ米國政府ヨリ自國産業保護ノ爲邦品ノ輸入制限ヲ提起シ來レルモノ多ク我方ニ於テモ日米貿易ノ大局ヨリ努メテ之ニ應シ出來得ル限り價格ノ統制乃至輸出量ノ制限等ヲ實施シ來リタルモ從來米國側ノ要望中ニハ國內生産極メテ寡ク到底國內ノ需要ヲ充足シ得サルモノアリ又將來米國內ニ生産増加シ得サルモノ等アリ此種商品ノ保護ノ名目ノ下ニ我對米輸出ヲ制限セントスルハ極メテ不合理ナルニ付右ノ點ヲ考慮ニ入レ左記ノ方法ニテ從來ノ交渉ヲ存續セシメタシ

三、右一及二ニ不拘米國側カ自國保護ノ爲邦品ニ對シ關稅ヲ増徴スル場合アルトキハ右増徴ノ額丈ハ米國政府ノ特別勘定トシテ中央銀行ニ預ケ入レ日本ノ公債支拂等ヲ支辨セシムルノ便ヲ講スルコト

四、日比通商ニ關シテハ我方カ直接比島政府ト交渉スルコトヲ承認セシメ現行綿布協定ハ不備ノ點ヲ改メテ存續セシムルコト

第三、本邦ノ石油業法及自動車製造業法ニ關シ近ク米國側ヨリ申出來ルヘキヲ豫想セラルル處右ニ法律ニ關シ米國側ニ對シテハ左ノ趣旨ヲ以テ説明スルコトモ一方法ナルヘシ

米國側ニ於テハ從來同國産業貿易ノ大局上問題視スルノ要ナキ本邦輸出品ニ對シ本邦側ノ自制ヲ要求シ或ハ高率ノ關稅引上ヲ實施スル等日米通商關係調整上大國ノ襟度ヲ缺ク怨アリ然ルニ一方本邦石油業及自動車業保護助成ノ如キハ國防、産業上急務ニ附スヘカサル國家存立ノ基本問題ニシテ米國側ノ邦品防遏ノ場合ニ於ケル如ク單ナル當業者ノ利己的動機ニ出ツルモノト同日ニ論スヘカラス我方カ困難ヲ忍ビ米國側ノ要求ニ對シテモ友交的協

議ニ依ル圓滿解決ニ努力シ來レル經緯ニ顧ミ本件ノ如キ本邦重大國策ノ圓滿遂行ニ對シ米國側ニ於テ充分友誼的態度ヲ以テ國內輿論ヲ指導セラルヘキヲ期待ス

(欄外記入)

來栖局長ヘモ手交

346

昭和11年6月13日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商委員會の趣旨等に関する米國側との

会談について

ワシントン 6月13日後発
本 省 6月14日後着

第二四五號

往電第二四一號末尾ニ關シ

十三日吉澤「ドーマン」ト會談ノ際本件ニ言及聞ク所ニ依レハ既ニ關稅委員會ノ報告ハ大統領ノ手許迄提出セラレ居ル由ナルカ豫テノ了解ニ基キ何等措置ヲ執ルニ先立チ御相談ニ與ルコトハ期待スルモ米國側ニ於テハ本件ヲ如何ニ

何レモ早晚何等カノ措置ニ出テサルヘカラサルコトトナルヘキヲ以テ「スライド、フアースナー」ノミニ付テ協定ヲ遂クルモ致方無キニアラスヤトモ自分丈ケ乍ラ考ヘ居ル次第ナルカ若シ敍上米國側ノ苦シキ立場ヲ諒察セラレタル上日本側ヨリ進ンテ米國當業者ノ苦情ヲ抑ヘ得ルカ如キ自制措置ニ關スル御申出ニ接スルコトヲ得ハ問題ノ解決上極メテ好都合ナルヘシト述ヘタルニ依リ吉澤ハ政治上ノ種々ナル困難ハ一應諒察シ得ラレサルニハアラサルモ對米貿易上入超ノ立場ニアル我國ヨリノ少額ナル輸入カ一々米國ニ於ケル關係方面ヨリノ政治的壓迫ノ犠牲トナルコトハ我國民ノ容認シ得サル所ナルヘク

殊ニ這般ノ綿布交渉ニ於テハ米國側カ選舉ヲ控ヘテ當面セラル政治的困難ニ付テハ充分理解シ我方ニ於テハ難キヲ忍ンテ讓歩ヲ爲シタルニ拘ラス假令法律上其ノ途無シトスルモ米國側カ我方ノ求メタル協力ヲ拒ミタル爲ニ不成立ニ終リタリトノ印象生々敷キ今日既ニ冷凍鮪ニ付我當業者並ニ外務省當局ノ不滿ヲ贖ヒタル抜打的關係引上ヲ見ルカ如キコトアランカ折角來栖大使ノ來華等モアリ御互ニ今後ノ改善ニ努力セサルヘカラサル兩國通商關係ニ暗影ヲ投スルコト

取扱ハルル御意嚮ナリヤ早目ニ承知シ度シト述ヘタルニ「ド」ハ之ハ此ノ場限りノ御話ニテ絕對極秘ノコトニ御含置ヲ請フトテ「ペンシルヴァニア」州選出上院議員「ガツファイ」(民主黨)ハ「スライド、フアースナー」工場ニ投資關係ヲ有スルヲ以テ本件ニ付「ホワイ、ハウス」方面ニ頻リニ壓迫ヲ加ヘツツアルカ「ガツファイ」自身上院ニ於テ相當勢力ヲ有スルニ加ヘテ「ペンシルヴァニア」ハ來ルヘキ大統領選舉ノ際ノ投票ノ内八〇票ヲ有スルノ事實ニ顧ミ同州方面ヨリノ要求ニハ耳ヲ傾ケサルヲ得サルノ事情アルコトヲ語リ從テ本件ニ付テハ紳士協定ヲ提議スヘキヤ又ハ直ニ關稅引上ヲ行フヘキヤハ一二大統領ノ意嚮ニ係ル次第ニシテ國務省トシテハ干與シ得ル餘地少ク専ラ來週中大統領カ何レカニ決定スル所ニ基キテ最善ノ策ヲ盡スノ外ナキ次第ナルカ

他方本件ニ付紳士協定ヲ結ヘハ一段落ト云フ次第ナラハ兎二角目下委員會ニ於テ取上ケ審議中ノモノニVelveteen and Corduroy, Knitted Goods(或大巾)Hosiery, Woollen Cloth, Hat Body, Umbrella Frame,「ウールニツト、グローブズ」(縫取ヲ施シタルモノ)等アリ是等ハ

無キヤヲ惧ルル次第ニシテ更ニ制限ノ提議ニ至リテハ之ヲ我方ヨリ爲スヘキ筋合ニアラスシテ米國側ヨリ爲サルヘキモノト思考セラルルニ付テハ再考ヲ煩度ク尙又品目ノ多キニ亘ルコトハ最近我國貿易進出情勢上已ムヲ得サル所ナリトスルモ之カ爲ニ紳士協定ヲ初ヨリ申込無シトスルハ當ラ

ス
來栖「セーヤー」會談ノ際提議セラレタル委員會案ノ趣旨ハ問題ノ起ルニ從テ早キニ及ンテ協議ヲ盡シテ解決方法ヲ見出サントスルニアリト了解スルヲ以テ品目多ク問題頻出スレハ夫レ丈ケ委員會又ハ其ノ他ノ打開案ノ必要アルモノト思考スト述ヘタルニ「ド」ハ自分個人トシテハ紳士協定ノ締結ヲ米國側ヨリ提議スヘキモノト思考スルモ前述ノ次第ニテ總テハ來週「ホワイ、ハウス」ノ決定ヲ俟タサルヘカラサルコトヲ繰返シ居タル趣ナリ

尙「ド」ヨリ我方自制提議ヲ希望シタル際例ヘハ昨年度輸入數量ニ基キテ言掛ケタルニ依リ吉澤ハ輸入ハ特許權ノ關係上昨年四月頃ヨリ纏マリタル數量ノ輸入始マリタルモノナレハ昨年度ヲ基準トスルコトハ當ヲ得サルヤニ思考セラルル旨ヲ述ヘ置キタル由ナリ

紐育商務官へ暗送セリ

347

昭和11年6月15日 在ニューヨーク井上総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

自動車製造業法をめぐるセイヤー國務次官補
との応酬振りについて

別電 六月十五日発在ニューヨーク井上総領事代理より
有田外務大臣宛第七一號
各事業法による外国資本排除を緩和させること
が得策である旨来栖大使の意見具申

ニューヨーク 6月15日後発
本 省 6月16日前着

第七〇號

來栖大使ヨリ

自動車業法ニ關シテハ華府ニ於テ「セーヤー」ト會談中質問出テタルニ付同法ハ所謂「キー、インダストリー」トシテ我國カ國產確立ニ努力シツツアル自動車製造業助成ノ必要ニ出テタルモノニシテ市場廣大ナル米國ニ於テスラ他ノ當業者ヲ辟易セシメ居ル「フオード」「シエボレー」等ノ

第七一號

來栖ヨリ

本使カ華府及當地ニ於テ各方面ト接觸忌憚無ク意見ヲ交換セル所ニ依レハ米國官民中ニハ我國ノ石油業法、自動車業法及滿洲國ノ石油專賣等ノ經緯ニ鑑ミ我國カ經濟的國家主義ノ確立ニ專念スルノ餘リ外國人企業ノ追出ヲ策シ居ルモノナルカノ如キ印象ヲ受ケ將來ノ對日投資ハ勿論在本邦既存企業及投資ノ安全ニ關シテモ杞憂ヲ懷キ居ル(モノ)鮮カラサルヤニ觀測セラルル處我國トシテハ現在四圍ノ情勢ニ直面シ諸外國カ諸般ノ考慮ヨリ我國ノ必要トスル産業技術ノ對日移植ヲ妨クルカ如キ措置ニ出テサルニ先立チテ出來得ル限り此ノ種技術ヲ取入レ置クコト極メテ緊要ナルモノアリト思考セラルルヲ以テ徒ニ外國人資本家ヲシテ怯ヘ上ラシムルカ如キ方策ヲ避ケ此ノ種産業技術移植上内外合同經營ノ計畫出テタル場合ニ於テモ徒ニ我國資本ノ支配的地位ヲ固執スルコト無ク少クトモ半々位ニテ折合ハシメ彼等ニ安心ヲ與ヘ以テ我國産業技術ノ發達設備ノ擴充ヲ圖リ經濟上並ニ國防上遺憾無キヲ期スルハ勿論彼等ヲシテ次第第二東亞ノ安定勢力タル帝國ノ地位ニ依存セシムル情勢ヲ誘致

競争ヲ年需要僅ニ二萬五千臺ニ過キササル日本市場ニ於テ此ノ儘自由ニ放任スルニ於テハ我國自動車製造ノ自立ハ殆ト永久ニ之ヲ期待シ得サル實情ナルニ鑑ミ已ムヲ得ス制定シタルモノナルコトヲ率直ニ説示セル處右ハ充分了解セルモ主義ノ問題トシテ米國人製造業發展ノ餘地ヲ全然打切ラルルノハ甚タ以テ困惑スル所ナルヲ以テ米國側ニ對シテモ假令少額ナリトモ將來發展ノ餘地ヲ與ヘラルル建前トセラレシコトヲ切望スル旨述ヘ居リタルカ當地ニ於テ日本産業淺原ニモ會見日本側ノ實(情)ヲ聴取セル所ヨリ推算スルニ同社カ買取交渉ヲ了セル「グラハム」ノ設備萬端据付運轉後ニ於テモ採算技術ノ兩方面ヨリ見テ今直ニ本邦需要ノ全部ヲ國產品ニテ充當シ得ルヤ否ヤ甚タ疑問ナルヤニモ思考セラルルニ付別電卑見ヲモ御參照ノ上本件處理ニ關シテハ此ノ上トモ充分御考慮相成様致度シ

米へ暗送セリ

(別電)

ニューヨーク 6月15日後発
本 省 6月16日前着

スルコト頗ル緊要ナルヤニ思考セラルル殊ニ彼等ヲシテ不安ノ餘リ支那等ニ走ラシムルカ如キコトアラハ經濟、國防、外交何レノ方面ヨリ見ルモ頗ル不得策ナリト信セラルルニ付冒頭彼等ノ杞憂ニモ鑑ミ至急關係當局トモ御協議ノ上彼等ノ不安ヲ如實ニ解消セシムルカ如キ措置ヲ講セラルル様切望ニ堪ヘス右卑見申進ス
米へ暗送セリ

348

昭和11年6月21日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

米國政府の自由通商主義からの全面敗退を回避するため我が方の協力を得たいとのセイヤー
―國務次官補見解について―

ワシントン 6月21日前発
本 省 6月21日夜着

第二五六號

往電第二五一號ニ關シ

本件ハ政治問題トシテ當方ニ於テ想像シ居タル以上ノ重大

性ヲ帶ヒ居ルモノノ如ク十九日午前中國務省ヨリ何等ノ沙汰ナカリシヲ以テ午後吉澤ヨリ問合せタルニ「ド」ハ白聖館某要人不在ノ爲話進マス明日迄待タレ度ク「セ」ハ勿論自分モ休暇ヲ延ハシテ目下折角奮闘中ナリトノコトナリシカ二十日朝「セ」ヨリ本使ノ來省ヲ求メタルヲ以テ吉澤帶同出向シタル處「セ」ハ既ニ御承知ノ通り本件報告書ハ白聖館ニ廻付セラレ大統領ハ其ノ勸告ニ基ク布告ヲ發スル手筈迄運ヒ居タルヲ百方奔走ノ結果漸ク茲ニ貴大使ニ對シテ眞相ヲ申上ケ政府ノ苦衷ヲ訴ヘ日本政府ノ御助力ヲ御願スル丈ケノ猶豫ヲ得タル譯ナルカ本件ハ全ク政治的見地ヨリ取扱ハレ居リ今ニシテ當業者ヲ代辯シ居ル議員連中ノ要求ヲ無下ニ却クルニ於テハ「ペンシルバニア」及「コネチカツト」ノ投票ヲ失フヤモ知レスト言フ境目ニアルヲ以テ民主黨全國黨務委員長「フアーレー」(郵務大臣)ノ如キモ布告發布ヲ極力主張シ居ル情勢ニテ此ノ際日本側ヨリ自制ノ御申出ニ接シ而シテ其ノ御申出カ大統領ノ再考ヲ可能ナラシムルカ如キモノナラサル限り遺憾ナラ關稅引上ヲ免レス⁽²⁾クノ如ク申上クルハ恰モ威嚇ノ如ク響キ自分ノ好マサル所ナルモ決シテ左ニ非スシテ茲迄漕付クルニ自分等カ相當

ノ苦心ヲ拂ヒタルコトハ御諒察ヲ願度ク抑々關稅引上乃至之二代ルヘキ自制ノ要求ヲ爲スコトハ現政府ノ主張スル自由通商主義ニ逆行スルモノニシテ之カ爲ニ反對黨ニ攻撃ノ口實ヲ與ヘ自分等トシテモ心苦シキ限リナルモ今假ニ本件ノ如キ比較的少量少額ノ商品ニ付當業者ノ要望ヲ容レサレハ結局長官ニ於テ折角努力シ來レル自由通商主義ノ全面的敗退ヲ見ルニ至ルナキヤヲ保シ難ク此ノ點現政府ト見解ヲ同シセラルル日本政府ノ協力ヲ切望スル次第ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ本件カ豫メ御相談ニ與ラスシテ今日ノ如キ情勢ニ立チ至リタルコトハ甚タ遺憾トスル所ナルモ其ノ間國務省側カ努力セラレタルコトハ充分了解スルヲ以テ御申出ノ次第ハ本省ニ取次クコトトスヘキモ自制限度ニ付テハ何等御考アル次第ナリヤト問ヒタルニ「セ」ハ本件交渉ノ鍵ハ政治家連中ノ手中ニ在リ國務省ハ漸ク日本政府ノ御意嚮ヲ問合ハス丈ケノ猶豫ヲ得ルコトニ成功シタルニ止マルヲ以テ數量ニ付テモ何トモ申上ケラレス唯々今ノ情勢ノ下ニ大統領ノ再考ヲ正當化セシムルニ充分ナル程度ニ餘裕ヲ見込ミテ日本政府ニ於テ決定セラレンコトヲ希望スルノミナリ

委員⁽³⁾會勸告ノ内容ヲ内密ニ申上クレハ關稅法第三三六條A項ノ措置ヲ勸奨シ居ルモ荏苒交渉ニ手間取ルニ於テハ大統領ニ於テ更ニ同條Bノ適用ヲ目標トシテ委員會ニ再審査ヲ求ムルノ餘儀ナキニ至ルノ危險モ充分ニ存スルヲ以テ此ノ邊ノ事情モ御含置キヲ願度シト述ヘ居タリ

在紐育商務官ヘ暗送セリ

349

昭和11年7月6日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

米國綿業有力者訪日に関する我が方商務官と

米國綿業協會会長との会談について

第二八二號
井上商務官ヨリ

ワシントン 7月6日後発
本 省 7月7日前着

本件ノ如キ取ルニ足ラサル輸入品カ米國內政上ノ理由ノ爲ニ犠牲ニ供セラルルコトノ理不盡ナルコトハ國務省トシテモ充分承知シ居ル所ナルヘキモ何分不幸ニシテ屢次電報ノ通り對外關係ヲ無視シ從テ國務省ノ思惑如何ヲモ顧ミスシテ純然タル政治的見地ヨリ取扱ハルルニ至リ殊ニ前顯ノ如ク今秋選舉ノ參謀長格タル「フアーレー」迄カ現閣僚ノ地位ニアリ乍ラ主張スルニ於テハ大統領トシテ之ヲ無視シ得サル立場ニ在ルモノト察セラレ本使ノ見ル所ニテハ此ノ上交渉ノ餘地ナキモノト思考セララルニ付テハ國務省側言分ヲ其ノ儘取次クノ嫌アルヘキモ冒頭引用往電末尾申進ノ通り當業者ノ意嚮ニシテ一月當時ト變化ナキニ於テハ如上「セ」ノ述ヘタル所ヲ御諒察ノ上之以上ノ自制ヲ強ヒラルルニ於テハ關稅引上亦已ムヲ得ストスル限度御明(示)ノ上折返シ御回電ヲ仰ク

六月二十九日關稅委員會調查(委員)長「フォックス」ヨリ電話ヲ以テ綿業協會會長「マーキソン」(前商務省内外通商局長ニシテ其ノ當時ノ演說ニハ屢日本カ米國ノ一大顧客トシテ重要ナルコトヲ力說シ日本品ノ輸入防遏運動者ニ對スル啓蒙ニ努メタルコトアリ)カ華府ニ於テ日本綿布ノ輸入殊ニ比島ニ於ケル輸入増加ニ付苦情ヲ唱ヘ對策攻究方請願シ來リ右根本解決策トシテ日米兩國當業者ノ會商ヲ考慮シ居タルヲ以テ「フォ」ハ其ノ可能性ニ付日本側ノ意嚮ヲ伺フ爲「マ」ヲシテ先ツ本官ニ面談セシメ度キ旨申越アリ

タリ依テ本官ハ紐育ニ於テ二日「マ」ト會見シ懇談シタル處「マ」ハ對米日本綿布ノ本年五箇月間ノ輸入量カ昨年中ノ輸入量ト殆ト近付キタルヲ指摘シ又最近比島ニ於ケル日本綿布ノ輸入増加ニモ言及シ之カ爲南部ノ綿業者迄カ頭痛ニ病ミ強硬ナル運動ヲ開始セントシツツアリ

⁽²⁾勿論對米日綿ノ輸入激増ハ關稅見越ニ依ル一時的ノモノナルヘク今回ノ關稅引上實施後ノ實績ヲ見サレハ議論ニハナラサルヘキモ米側ニハ日本ノ實力ニ恐ヲ抱キ居ル者多ク今後日綿ノ輸入カ那邊迄増加スルヤヲ心配シ今ヨリ對策ヲ講セサレハ遲キニ失スル惧アリト爲シ「アラバマ」綿業組合長「コダー」ハ日米當業者ノ會商ニ依リ對米日綿ノミナラス對比島綿布問題及其ノ他ノ市場ニ於ケル問題ニ付テモ御互ノ立場ヲ了解シ合ヒ双方安心シテ各得意ノ方面ニ延ヒラルル様何等カノ協定ヲ得度キ希望ヲ有スル處右ニ對スル日本側ノ意嚮ヲ伺ヒ度シト云フニアリ右ニ對シ本官ハ何レ當業者ノ意嚮ヲ聽キテ回答スル旨ヲ前提トシ唯本官限りノ私見トシテ既ニ昨夏内閣綿業調査委員會ニ對シ本問題ヨリ政治的分子ヲ火急のニ取除キ經濟的ニ解決スル爲日米兩國當業者ノ會商ヲ希望シタル關係モアリ「マ」ノ計畫ニ反對ニ

紐育商務官ニ托送セリ

350 昭和11年7月13日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商委員會のあり方につき米國側と意見交換について

ワシントン 7月13日後発
本 省 7月14日前着

第二八九號

⁽¹⁾「往電第二七〇號會談ノ際「セイヤー」ハ關稅委員會ニ當業者ヨリ陳情アリタルモノノ中情勢逼迫セル數種ニ付現狀ノ「ステートメント」ヲ作成シ御參考迄ニ送付スヘキ旨ヲ述ヘ居タルカ十一日「ビーチ」ハ「セ」ノ命ニ依ル趣ヲ以テ吉澤ノ來省ヲ求メ要領別電第二八七號及第二八八號ノ通りノ「ステートメント」ヲ示シ吉澤ノ質問ニ對シ「コットン、ホイゼリイ」ニ付テハ關稅委員會ハ當業者ノ申請ヲ受理シ關稅法第三三六條ニ基キ「プレミナリイ、インベスチゲーション」ヲ開始セル次第及「コットン、ベルベチーンズ」ニ付テハ目下曩ノ上院決議ニ依

ハアラサルカ日本側ハ既ニ増稅ノ打撃ニ憤慨シ居ル今日更ニ不利ナル協定案等ニ氣乗リスル筈ナシト思ハルモ若シ米側カ相當ノ禮ヲ盡シ日本ノ立場ヲ能ク了解シ日米双方カ満足シ得ルカ如キ見込ヲ以テ

⁽³⁾米側ヨリ例ヘハ綿業有力者ヲ日本ニ派遣スルカ如キ具体案ヲ示シ來ラハ欣ンテ之ヲ取次クヘク又本官歸朝ヲ利用シテ相當斡旋ノ勞ヲ取ルヘシ而シテ假令右協定ニ對スル具体案ヲ今直ニ纏ムルコト困難ナリトスルモ米國有力綿業者カ日本ノ立場ヲ理解スル爲丈ケニテモ日米双方ノ爲ニ利益アリト考ヘラルルニ付右何レニシテモ具体案ヲ示サレ度シト述ヘタルニ對シ「マ」ハ自分モ日本ニ行キ度キ意ヲ示シ頗ル氣乗シタル様子ヲ爲シ更ニ協會幹部並ニ國務省及關稅委員會等トモ非公式ニ相談シ結果ヲ「メモランダム」トシテ本官出發迄ニ同附スル旨答ヘタリ

右ニ付更ニ「フオ」ノ意見ヲモ確ムル要アルニ付六日華府出張中「フオ」ニ内話シ置キタルカ其ノ際「フオ」ハ八日紐育ニ於テ「マ」ト會見ノ上具体案ニ付意見交換スヘク其ノ結果何レ「マ」ヲシテ國務省ト相談セ(シ)メ日本側ニハ大使館ヲ通シテ交渉スルコトスル旨附言セリ

リ同委員會カ關稅法第三三二條ノ一般の調査ヲ爲シ居ルカ右ハ同法第三三六條ノ調査ニ變更セラレ得ルノ可能性アルコトヲ述ヘタル趣ナリ前記「ステートメント」郵送ス

⁽²⁾「往電第二四〇號來栖「セ」會談ノ際ノ委員會設置案ハ紐育商務官宛貴電第一六號ノ次第モアリ機會アル毎ニ當方ヨリ督促スルニ拘ラス其ノ後何等進捗ヲ見サル處井上商務官出發前何トカ目鼻付ケ置クコト然ルヘシト思考シ六日吉澤、早間、井上ト「ビ」(「ド」ハ休暇不在)トノ間ニ本件ニ關スル會談ヲ行ハシメタル結果大體當地及東京ニ雙方ノ官吏ヨリ成ル委員會ヲ組織シ定時會合シ外ニ兩國當業者代表ヲ含ム委員會ヲ雙方ニ常設シ相互聯絡協力スルコトヲ理想的ナリトスルモ後者ニ付テハ現ニ問題トナリ又ハナラントスルノ惧アル兩國間種々ノ困難ヲ豫想セラルルヲ以テ差當リ前(者)ノ中當華府ニ於ケルモノヲ成立セシメ其ノ會合ニ於テ當面ノ問題ニ付意見ノ交換ヲ行フ傍ヲ

⁽³⁾前記東京ニ於ケル管理委員會ノ組織及當業者委員會ヲ如何ニスヘキヤノ問題ヲ研究スルコト然ルヘシトスルニ意

見ノ一致ヲ見「ビ」ヨリ右ノ次第「セ」ニ報告ノ上成ル
ヘク速ニ本件委員會設置方實現ヲ期スルコトニ話合ヒタル趣ナルカ「ビ」ハ本日ノ會談ニ於テ右六日會談ノ結果ヲ得タル旨ヲ告ケ管理委員會ノ構成ニ付米國側ヨリ關稅委員會ハ當然ナルカ商務省及農務省代表者ハ如何ニスヘキヤト相談アリタルニ對シ東京ニ於ケル委員會成立ノ際ハ商工及農林省ヨリ參加アルヘク（東京ニ於テハ當然大藏省參加スヘキモ當地ニ於テハ關稅問題ノ關スル限り關稅委員會ニテ充分ナルヘク先般ノ油脂課稅ノ如キ問題起ルトキハ別ニ考慮スルコトトスヘシ）華府ニ於テハ少クトモ商務省ノ參加ハ望マシク農務省ヨリ特定ノ問題ニ付テハ參加ヲ求メ得ル様シ置クコト然ルヘキ旨答ヘ置キタル趣ナルカ本件ハ何レ右ニ基キ成案ヲ得次第報告スヘキモ差當リ心得置クヘキコトアラハ御電報ヲ請フ
本電「ノミ在白耳義大使ヘ暗送セリ
紐育商務官ヘ暗送セリ

351

昭和11年7月17日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛（電報）

一千九百萬ニ止メントスル我方ノ努力カ實績ヲ擧ケツツアルコトヲ示スモノナリトテ貴電第一五六號別表甲號數字ト比較シテ説明シタルニ「セ」ハ一應首肯シツツモ尙自分カ三月下旬四百萬切捨ノ提議ヲ爲シタル際ハ（往電第一一〇號）密ニ香港積替量カ其ノ範圍内ニ止マルコトヲ希望シ居タルニ事實ハ六月末ニ於テ早クモ七百萬ニ達スルコトナリタルヲ以テ難關ニ逢着シタル次第ナルカ良ク御承知ノ通リ
元來本協定ハ比島市場ヲ日米折半スルコトヲ目標トシタルニ現狀ハ此ノ目標ヲ距ルコト遠ク刺繡用ノ綿布ヲ除クトキハ日本品ト競争ノ地位ニアル米綿布ハ極メテ僅ノ分前ニ預カルニ過キサルノ實情ナルニ付テハ協定第二年度ニ於テハ第一年度ノ超過分ヲ差引キ而シテ香港積替量ハ之ヲ直接積出量ヨリ控除シテ統制ヲ計ル等ノ方法ヲ講シテ何トカシテ協定ノ繼續ヲ計リ度キモノナリト述ヘタルニ依リ吉澤ハ香港經由輸入ハ全ク其ノ時々ノ商機ニ依ルモノニシテ直接輸出ヲ手控フルコトハ比島市場ノ値上リヲ誘致シ香港ヨリノ輸入ヲ刺戟スルノ結果ヲ招來スヘク斯ノ如キ不安定ノ條件ニ依リ年度始ニ多額ノ統制手數量ヲ徴シテ之ヲ爲ス割當量

對フィリピン綿布輸出問題に関する米國側と
の會談経緯および今後の応酬振りについて

ワシントン 7月17日後発

本 省 7月18日前着

第二九四號

馬尼刺發貴大臣宛電報第一八五號前段ト同様ノ數字ハ當地國務省ニ於テモ十五日他用ニテ往訪ノ館員ニ之ヲ交付シ（香港經由中日本品一、〇四五（千）平方米）然ラサルモノ六一四及中華民國ヨリノ輸入二五三竝ニ米本國ヨリノ輸入一九九二ヲ併記ス）右ニ付會議ヲ希望シ來レルヲ以テ十七日吉澤ヲシテ往訪セシメタルニ「セ」ハ六月末ニ於テ既ニ次年度ヨリ一割ヲ融通シタル數字ニ近着キタルノ事實ニ關シ協定ノ繼續ヲ切望スル自分トシテハ寒心ニ堪ヘス今ニシテ何等カノ措置ヲ講セサレハ獨リ比島又ハ綿布ノ問題ニ止マラス日米通商全般ノ前途ニ好マシカラサル影響ヲ及ボスコトナキヤヲ惧ルル次第ナリト述ヘタルニ依リ吉澤ハ右ハ香港積替ニ關スル兩國見解ノ合致セサル限り致方ナキ事態ニシテ從來度々繰返シ説明シタル理由ニ依リ之カ除外ヲ主張スル我方ヨリ見レハ六月末ノ數字ハ第一年下半年期ノ輸出ヲ

ヲ決定スルカ如キコトハ到底豫想シ得サル所ニシテ香港經由品ヲ技術上統制シ難キ理由ハ既ニ説明ヲ盡シ日本側ニ於テハ不可能ナルニ依リ貴方ノ御協力ヲ得度キ旨要望シタルニ對シ（脱）領事査證ノ不可能ナルコトニ付テハ御説明ヲ承ハリタルカ比島側ノ立法措置ニ依ル協力ノ點ハ如何ナリ居ルヤ恰モ比島議會開催中ニシテ我方トシテハ此ノ機會ニ於テ適當ノ方法ヲ講セラレサル模様ヲ見テ不審ニ思ヒ居ル次第ナリト反問シタルニ「セ」ハ比島議會ニ對シ香港經由ノ日本品ノ輸入ヲ禁止スルカ如キ立法ヲ懲憑スルコトハ現政府ノ堅持スル互惠自由通商主義ノ根（本）ヲ破壊スルモノニシテ到底爲シ能ハサル所ニシテ萬一比島ニ付前例ヲ開クニ於テハ例ヘハ
中南米等ノ國ニ對シテ日本品ニ對シテ不利益トナルカ如キ政策ヲ執ルコトヲ強制セラレタルトキニ之ヲ拒否スルニ困難ヲ感スルカ如キ場合モ想像セラレサルニアラス此ノ點ハ御諒察ヲ得度シト述ヘタルニ依リ吉澤ハ然ラハ香港問題ニ付テハ協力ノ途ナク之ヲ除外シテハ協定繼續ニ對シ多大ノ支障ヲ生スヘク而モ大局上ヨリ何トカ存續ノ途ヲ講シ度シトノ御申出ト了解スル處右ハ結局日本側ノ讓歩ヲ求メラル

ルコトニ歸着スルモノニシテ出先限リノ判斷ニテハ何トモ申上ケ兼ヌルニ依リ今日會談ノ次第ヲ具シテ請訓スルノ外ナシト述ヘタルニ「セ」ハ本件交渉ニ付テハ當初ヨリ米國側ハ數量ノ問題協定成立當初ニ存在セル二千八百萬處分ノ問題、人絹ノ問題等累次ノ讓歩ヲ重ネ來レル次第ヲ御了解アリ度ク要ハ當初ノ目的タル比島市場折半ノ實現ニアル旨ヲ繰返シタルニ依リ吉澤ハ既ニ來栖大使ヨリ指摘セラレタル如ク我國トシテハ米國ニ讓ルコトハ他ノ我ニ對シテ不利ナル通商關係ヲ有スル國ノ我國ニ對スル要求ヲ抑フルコトヲ困難ナラシムルモノニシテ又一方米國ト同様ノ關係ニアラ濠洲ニ對シテハ最近通商擁護法ヲ適用シ居ル等ノ關係モアリ本省ニ於テ本件ヲ考慮スル上ニハ多大ノ困難ヲ豫想セラル旨ヲ述ヘ置キタル趣ナルニ付テハ如上會談ノ經緯充分御檢討ノ上先方ニ對スル應酬振返シ御同電ヲ請フ

馬尼刺ヘ轉電シ紐育商務官ヘ暗送セリ

352

昭和11年7月30日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

協定廃棄を避けるため対フィリピン輸出綿布

勘ニ固執スルモノニアラス何トカ實際ニ即シタル方法ニテ解決ヲ計リ度ク考ヘ居レルカ抑々本件協定ノ締結ハ比島市場日米折半ヲ其ノ當初ノ目的トシタル處運用一年ノ終ニ近キ今日迄ノ成績ハ此ノ目的ニ副ヒタルモノト言フヲ得ス

吉澤ハ馬尼刺發大臣宛電報第一九六號ノ趣旨ニ依リ支那其ノ他ヨリノ輸入カ協定ニ依ル日本品減少ノ穴埋トナリタルコトヲ指摘シタルニ「ド」及「ビ」ハ口ヲ揃ヘテ右ノ外人絹ノ侵入モ大原因ヲ爲シ居ル旨ヲ述ヘタリ併シ米國側ハ此ノ點ヲモ今更云爲スル次第ニハアラサルモ米國側ノ見解ニ依レハ協定第一年度ノ輸入量ハ明カニ四千九百五十萬ヲ超ユルコトトナルヲ以テ此ノ際日本側ニ對シテ協定ノ根本精神即チ日米折半ノ大綱ヲ想起セラレ第二年度ノ最初ノ二、三箇月ニ於ケル輸入カ「アペレージ、アンド、モデレート」ノ程度ヲ超ヘサル様即チ三、四百萬位ニ平均スル様統制ノ手加減ヲ加ヘラレンコトヲ希望シ度キ旨申出テタルニ依リ吉澤ハ日米折半主義ハ我方モ同意ヲ與ヘタル所ニシテ爾來我方ハ嚴格ニ統制ヲ實行シ來リタルコトハ今更繰返ス迄モナキカ我方ノ責任ヲ負ヒ

香港積替問題を現実的方法で解決したいとの
米國側申出について

ワシントン 7月30日後発
本 省 7月31日前着

第三〇四號

往電第二九四號ニ關シ

其ノ後「セ」ハ休暇ヲ取り歐洲旅行ニ出發シタルカ三十日「ド」ヨリ吉澤ノ來訪ヲ求メ「ビ」ト共ニ會談シタル要領左ノ通り

「此ノ際協定ヲ廢棄スルノ已ムナキニ立至ルカ如キコトアリテハ國內的ニハ今秋ノ選舉ヲ控ヘテ現政府ノ失敗トシテ攻撃ノ一目標トセラルルノ惧アリ(政戰酣トナルニ連レ共和黨ノ勝ツ見込モナキニアラスト云フコトナレハ次ノ「アドミニストレーション」カ保護政策ヲ採ルコトヲ見越シ之ト「バーゲン」ノ基礎ヲ作り置カントスルノ思惑ヨリ比島政府カ綿布關稅引上ヲ策スルコトナキヲ保セス)依テ米國側ハ飽迄協定ヲ存續シ度キ意嚮ヲ有スル處香港積換ノ問題ニ付テハ之カ除外ヲ認ムルコトヲ得サルモ同時ニ日本側ノ困難ハ之ヲ充分了解スルヲ以テ之ヲ執

得サル香港積替ノ難問ニ逢着スルヤ我方ハ米國側ノ協力アルニ於テハ積替輸入ニ依リテ得ヘキ利益ノ如キハ之ヲ全然顧ミス一意統制ノ實ヲ舉クルコトヲ期シタルニ米國側ノ拒絕ニ會ヒ今日ノ事態ニ立至リタルニ米國輿論ハ我方ノ正當ナル態度ヲ知ルノ機會ヲ與ヘラレサルヲ以テ兎モスレハ我方ヲ批難スルノ傾アルハ遺憾ナリハ、九、十月位ノ輸出量ヲ手加減スルコトハ一應政府ニ取次クヘキモ自分ノ承知スル所ニテハ組合員ニ對スル割當ハ相當前廣ニ爲サレ而シテ一旦割當テラレタル量ヲ輸出スルニ際シテハ之ニ干渉スルコト不可能ナリト思料セラルルヲ以テ果シテ政府ニ於テ同意スルヤ否ヤハ保シ難ク又前記「セ」ニ對シテ述ヘタル如ク商期ニ依リ香港積替カ多カラントスルカ如キ場合日本ヨリノ直輸出ヲ手控フルコトハ却テ積替ヲ獎勵スルカ如キ結果ヲ見ルコトナキヲ保シ難ク何レニスルモ本日御申出ノ便法ハ香港積替ヲ如何ニ取扱フヘキカノ根本問題ノ解決ニ觸ルルノコトナク唯協定第一年度終了ノ成績ニ對シテ向ケラルヘキ批難(米國側ノ見解ニ依ル)緩和ノ方法トシテ考慮スヘキモノト了解スル旨述ヘ置キタルカ

先方ハ米國側計算ニ依ル第一年度協定量超過量ハ第二年數量ヨリ差引クヘキカ否カニ付テハ言及セサリシヲ以テ吉澤モ此ノ點追求セス

ニ吉澤ハ馬尼刺總領事ヨリノ電報ヲ見ルニ香港積替輸入品ハ支那商ノ取扱ニ係ルヲ以テ表向日本品ヲ名乗ルモノ殆ト皆無ト察セラルル處スノ如キ輸入品中何レヲ日本品ト鑑定スルカニ付テ多少「アービトラリネス」ノ要素アルヤニ想像セラルルカ若シ米國側ニシテ協定ノ存續ヲ切望セラルルニ於テハ鑑定ノ手心ニ依リテ香港積替品中日本品トシテ統計ニ現レルモノノ數量ヲ少カラシムル途モ存スルニアラスヤト試ニ述ヘタルニ兩人トモ斯ノ如キ手加減ハ困難ナリト述ヘ居タリ

冒頭往電請訓ニ對シテハ既ニ御攻究中ノコトト存セラルル處今日改メテ督促ノ意味合ニテ前記ノ如キ申出アリタル次第ナルニ付テハ折返シ應酬振御回示ヲ請フ
馬尼刺ヘ轉電シ紐育商務書記官ヘ暗送セリ

353

昭和11年8月13日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

ハ直接本邦側當業者團體ト綿業協會トノ交渉ニ移サルルカ何レニシテモ時日モナキコトナレハ急速ニ處理セラルルコトト信スル旨ヲ述ヘタルカ其ノ際「ビ」ハ本月下旬刊行ノ「リバチー」誌ニ「アメリカン、コトン、マヌファクチュアラーズ、アソシエーション」會長 Comer (冒頭往電參照)ノ日本綿布ノ競争ニ關スル意見發表セラルヘキ處
右記事ハ「コ」カ「インタービュー」ノ際「リ」誌記者ノ巧妙ナル誘導質問ニ乗セラレ平素抱懷シ居ル以上ニ強硬ナル意ヲ表明シタルカ如キ結果トナリ「コ」自身モ大イニ心外ト爲シ居ル所ナルカ「マ」カ本件ヲ知リタル時ハ既ニ時期遅クシテ之カ撤回不可能ナリシヲ以テ右記事ノ效果ヲ減殺スルノ目的ヲ以テ「マ」自身ニ於テ一文ヲ起草シ右寄稿カ「リ」誌發行直前ノ紐育「タイムス」日曜附録「マガジン」ニ掲載セラルル様取計ヒタル旨「マ」ヨリ内話アリ而シテ「マ」ハ本件計畫ヲ早(速)進メントスル矢先右「リ」誌ノ記事ニ依リ日本側ノ感情ヲ刺戟スルカ如キコトナキ様憂慮シ居タル旨述ヘタル趣ナルカ右ニ徴スルモ協會側ハ本件實現ニ相當乘氣トナリ居ルモノト察セラル
尙「ビ」ハ本件ハ「コ」ト話合ヒタル譯ニハアラス自分限

米國側より綿業視察團の訪日打診について

ワシントン 8月13日前発
本 省 8月14日前着

第三一七號

往電第二八二號ニ關シ

其ノ後井上商務官ハ出發直前更ニ綿業協會幹部二十數名ト會談シタル趣ナルカ十二日「ビ」ハ吉澤ノ來訪ヲ求メ實ハ兩三日「マ」キソン」國務省ヲ來訪シ井上商務官ト會談ノ次第ヲ協會員ニ諮リタル處日本ニ視察團ヲ派遣スルコトニ付各方面ノ同意ヲ得タルヲ以テ日本側當業者ヨリ招待ニ接スレハ出來得ル限り有力者ヲ網羅シテ出發スヘク而シテ其ノ時期ハ事業ノ都合上十月ニ出發ノコトニ取運ヒ度ク右ノ次第ヲ井上商務官トノ話合ニ基キ國務省ヨリ大使館ニ傳達アリ度キ旨申出アリタルカ實ハ右「マ」ノ申出ヲ大使館ニ取次クニ當リ國務省カ何ノ程度ニ介入スヘキヤニ付省内多少ノ議論アリ結局自分ヨリ非公式ニ取次クコトナリ御來訪ヲ煩ハシタル次第ナリト述ヘタルニ依リ吉澤ハ右ノ次第ハ早速電報スヘク本省ニ於テハ恰モ滯京中ノ井上商務官トモ協議ノ上當業者ニ諮リ其ノ結果ハ小官ニ回答アルカ或

354

昭和11年8月13日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

選挙対策上日本側の輸出調整に関する言質を得たいとの米國側申出について

ワシントン 8月13日後発
本 省 8月14日前着

第三一八號

往電第三〇四號ニ關シ

往電第三一七號會談中比島ニ於ケル七月中日本綿布輸入ニ關スル數字(但シ馬尼刺、「イロイロ」及「ザンボアンガ」三港ノミ)入電シタルカ總量一、九一一(千平方米)中日本ヨ

リノ直輸入一、三九四香港經由五一七トナリ居リ右ニ依リテ計算スルトキハ協定實施十二箇月間ノ數字ハ約五一、〇〇トナリ協定數量ヲ超ユルコト一、五〇〇トナル旨ヲ記載シ居レリ右ニ關聯シテ十二日及十三日吉澤ト「ビ」、「ド」間ニ種々議論シタルカ米國側カ協定量ヲ超過セリトノ議論ニ對シ右香港積替ノ除外ヲ主張スル我方ハ到底容認ノ餘地ナキコトヲ明カニシタルニ對シ米國側ハ日本側ノ困難ハ充分了解スルヲ以テ此ノ點ニ討論爭ヲ繰返スコトヲ暫ク避クルモ前記數字ヲ公表スルトキハ實ハ自分等ノ私見トシテハ高々百萬、二百萬ノ超過ハ大局上左迄重視スヘキニアラストハ思考スルモ從來ヨリ本協定ヲ非難スルノ機會ヲ窺ヒ來レル分子ハ得タリ賢シト日本側ノ不信乃至國務省ノ失敗ヲ攻撃シ而シテ右攻撃ハ政戰酣ナル今日現政府攻撃ニ利用セラルコト火ヲ賭ルヨリモ明カナル處其ノ場合國務省トシテハ斯クノ如キ攻撃ヲ反駁シテ協定ノ満足ナル實施ヲ示シ得ルニ充分ナル根據ヲ有セサル限り

自衛ノ立場ヨリモ香港積替問題ニ關スル從來ノ主張ヲ明カニシテ其ノ責任ニアラサルコトヲ辯明スルノ餘儀ナキニ立至ルヘク斯クノ如キハ紳士協定ノ本質ニ顧ミ素ヨリ其ノ欲

セサル所ナルモ政戰期特異ノ事情ニ顧ミ已ムヲ得サルコトヲ了解アリ度キコトヲ希望シ結局前記所謂根據トシテ冒(頭)往電(一)申進ノ統制手加減申出ニ付何等カノ形ニ於テ日本政府ノ「アツシユランス」ヲ得度キ旨述ヘタリ依テ吉澤ハ協定ノ存續ハ日本政府ニ於テモ希望スル所ナルヘキモ手加減ノ實施ニ付テハ前回會談(往電第三〇四號)ノ際指摘ノ通ノ困難アリ又右ノ如キ「アツシユランス」カ香港積替ノ問題ニ關スル日本政府從來ノ立場ヲ「コンプロマイズ」スルカ如キモノナルニ於テハ到底望ナシト信スルモ兎モ角政府ニ取次キ回訓ヲ仰クコトトスヘシト述ヘタル處「ド」ハ右ノ如キ「アツシユランス」ヲ得タル曉ニ之ニ基キ爲サルヘキ公表其ノ他ノ中ニ香港積替ノ問題ヲ蒸返スカ如キコトナキ様シ度キ積リナリト述ヘ居タル趣ナリ

本件ニ付曩ニ「セ」ヨリ申出(往電第二九四號)ニ接シテヨリ相當時日經過シ居ルヲ以テ本省ニ於テ充分研究ノコトト存セラルル處更ニ七月分ノ數字モ大體判明セル今日成ルヘク速ニ回答ノ要アルヤニ認メラルルニ付テハ應酬振返シ御電報相成度シ

紐育商務官ヘ暗送シ馬尼刺ヘ轉電セリ

355

昭和11年8月29日

有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

我が方綿業者は米國綿業視察團來日を歓迎する旨國務省へ回答方訓令

本省 8月29日後5時0分發

第二〇二號

貴電第三一七號ニ關シ

二十八日業者ト協議シタルカ業者側ハ本件視察團派遣ノ問題カ米國側ヨリ提議サレタル關係モアリ當方ヨリ招待ヲ發スルコトト致ササルモ同視察團ノ來訪ハ相互ノ認識ヲ深メ且綿業者間ニ友好ノ精神ヲ作ル丈ニテモ有益ナルヲ以テ視察團來訪アルニ於テハ喜ンテ之ヲ歡迎シ且腹藏ナク協議ニ應スルノ意嚮ナルニ付テハ右ノ次第國務省ニ回答シ置カレタク尙具陳申ス迄モナキ儀作ラ協議ノ題目サヘモ確定セサル今日ヨリ米國側ヲシテ本邦トノ話合ニ餘リ期待ヲ懸ケシムルニ於テハ話合纏ラサル場合先方ヲ失望セシムヘキニ付單ニ日本見物程度ノ輕キ氣持ニテ來訪方申添置カレタシ追而政府トシテハ視察團ノ歡迎及右トノ協議ハ全然之ヲ民間業者ニ委シ又視察團中ニ懸案トナリ居ル商品ノ關係者ヲ

加フルコトハ協定纏ラサル場合ニ於ケル先方態度ノ硬化ヲ懸念セラルルニ付之ヲ避ケシメタキ意嚮ナリ

商務官ニ暗送アリタシ

356

昭和11年9月3日

有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

我が方が希望するワシントンでの日米通商委員會の速やかな設立につきセイヤー國務次官補の意向探索方訓令

本省 9月3日後6時40分發

第二〇四號

貴電第二八九號ニ關シ

本件委員會ハ彼我ノ連絡ヲ緊密ニシ情報ノ入手將又各種問題ノ圓滿ナル解決ヲ助クル上ニ於テ效果少カラサルヘク我方トシテハ速ニ貴方ニ於ケル委員會設立ヲ希望ス尤モ之ニ對應シテ東京ニ設ケラルヘキ委員會ニ關シテハ彼我事情ヲ異ニスル關係モアリ一定組織ノ委員會ヲ設クルモ果シテ實際満足ニ運用シ得ルヤハ疑ハシク當方トシテハ差當リ先ツ

貴方ニ於ケル委員會ヲ開カルコトトナレハ好都合ナル次第ナルカ本問題ニ關シテハ政治的考慮ヨリ「セイヤー」其態度ヲ留保シ居ル趣ナル處右「セ」ノ意嚮御探索ノ上同電アリタシ

商務官ニ暗送アリタシ

357

昭和11年9月4日

有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛(電報)

米國側に対する最後の「ジェスチャー」とし

て香港向けも綿布輸出統制に加える旨通報

別電 九月四日発有田外務大臣より在米國齋藤大使宛

第二〇七号

香港向け綿布輸出統制方法について

本省 9月4日後7時発

第二〇六號

貴電第二九四號ニ關シ

當初ヨリ引續キ攻究中ノ處我方トシテ採り得ヘキ唯一ノ措置ハ香港ヲ組合ノ統制地區ニ編入シ香港向輸出ニ統制ヲ實施スル外ナキ次第第二鑑ミ組合ニ對シ右實施方極力從憑シ來

ニ輸出シタルモノト組合ニ於テ認メタル場合ニ於テ其組合員カ豫メ事情ヲ知り居リタルモノト認メラルトキハ其組合員ニ對シ輸出ヲ禁止シ得ルモノト爲スコト、右方法ノ實施ニ付テハ本邦綿織物ヲ香港ヨリ比島ニ輸入シタルモノアルトキハ其者ノ氏名、營業所等ヲ比島駐在米國商務官ヨリ非公式ニ組合宛通知ヲ受クル等米國側ノ協力ニ俟ツコト

ニ香港向綿織物ノ輸出ニ對シテハ一碼ニ付二厘五毛ノ統制手数料ヲ徵集シ(比島向ノモノノ統制手数料ハ現在一碼ニ付三厘ナルカ之ヲ一厘五毛ニ引下ク)香港ヨリ比島以外ノ地ニ再輸出シタルコトヲ立證シタルモノニ限り當該綿織物ニ對スル統制手数料ニ相當スル金額ヲ返還スルコト

358

昭和11年9月6日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

香港向け輸出統制措置をめぐる米國側との会谈について

リシカ漸ク別電第二〇七號ノ通統制ヲ爲スコトニ決定シ近ク實施ノ筈ナリ

右ニ依レハ在來ノ香港向正常取引ハ別段ノ障害ヲ受ケス最近跳梁セル香港廻比島積出ハ餘程窮窟トナリ比島ノ市價カ急騰セサル限り相當抑制ノ效果ヲ發揮シ得ヘシ

右ハ我方ニ於テ米國側ニ對スル最後ノ「ジェスチャー」

ニシテ右措置ハ自由港ニシテ南支、南洋諸國ヘノ綿布進出ノ足場タル香港ノ地位ヲ無視スルモノナリトシテ當業者ノ反對熾烈ナルモノアリタルニ不拘之ヲ押切り無理強ヒシタルモノニシテ右以上ノ措置ハ絕對ニ採リ難キニ付此ノ點國務省ニ充分御説明ノ上米國商務官及比島官憲ノ協力方申入レラレ度シ

馬尼刺、香港へ轉電セリ

(別電)

本省 9月4日後7時発

第二〇七號

一組合員ノ輸出ニ係ル香港向綿織物ノ香港ニ於ケル輸入者又ハ其輸入者ヨリ當該綿織物ヲ買受ケタル者カ之ヲ比島

ワシントン 9月6日後発
本省 9月7日前着

第三四二號

貴電第二〇六號ニ關シ

五日吉澤「セ」ヲ往訪貴電第二〇七號別電ノ趣旨ヲ英譯シタルモノヲ示シテ冒頭貴電御來示ノ次第ヲ篤ト説明シタルニ「セ」ハ我方協調の努力ヲ頗ル多トシ此ノ案ナラハ自分ノ見タル所ニテハ當面ノ難局ヲ切抜ケ協定ヲ繼續シ得ル望充分ナリト思考スルモ關係ノ向ニ協議ノ必要アルヲ以テ其ノ上ニテ追テ米國側ノ意嚮ヲ申上クルコトスヘシト述ヘタル後本協定ハ當初比島市場日米折半ノ趣旨ニ依リ成立シ而シテ其ノ數量ハ二年間ヲ通シテ九千萬ト言フコトニナリ居ル處實施一年間ノ實績カ折半ノ目的ヲ達セサリシニ顧ミ日本側カ今後香港積替ニ對シ統制ヲ實施セラルル以上第一年度ニ於テ斯クノ如キ香港積替ニ依リテ生シタル協定量超過ハ之ヲ第二年度輸出量ヨリ控除セラルル御意嚮ナリヤト問ヒタルニ對シ吉澤ハ本省來訓中ニハ何等此ノ點ニ言及シ居ラサルモ我方從來香港積替ヲ控除スヘシト主張シ來レル立場ハ今般多大ノ苦心努力ノ未斷行スルコトニ決シタル

措置ニ依リテ變更セラルルモノト思考スルコトヲ得ス

(2) 今日通報シタル決定ハ今後香港積替カ協定ノ實施ヲ阻害スル程度ヲ最少限度ニ止メントスルノ誠意ニ出ツルモノナルニ右ニモ拘ラス貴方カ飽迄香港積替ノ數字ヲ加算シテ我方カ協定量ヲ超過シタリトシ從テ之ヲ第二年度分ヨリ控除スヘシト主張セラルルニ於テハ從來ノ論爭ヲ繰返スコトナルヘキ處貴官(セ)休暇中「ド」ト話合ニ於テ徒ニ此ノ點ノ論爭ヲ繰返スコトハ双方ニ益ナキヲ以テ何トカ此ノ爭點ヲ避ケテ實際的解決ヲ見出スコト肝要ナリトスルニ我々兩人ノ意見一致シタルコトハ御聞及ノコトト信スルカ自分ノ考ニテハ此ノ見解ハ日本政府ニ於テモ異存ナカリシ結果今日申入レタル通りノ訓令ニ接スルコトナリタル次第ト推測シ居ルニ付テハ米國側ニ於テモ如上ノ経緯ハ好ク御了解セラレ度ク又折半主義ハ我方ニ於テモ異存ナカリシ所ニシテ年四千五百萬ノ數字モ大體之ヲ根據トシテ割出サレタルモノナルモ比率主義ニハ當初ヨリ反對ナリシコト御記憶ノ通りナルヲ以テ実績ノ如何ヲ以テ今更此ノ數字變更ノ根據トセラルルコトハ到底我方ノ承復シ難キ所ナリト信スル旨ヲ述ヘタルニ

359

昭和11年9月16日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商委員會の名称および構成員について

ワシントン 9月16日前発
本 省 9月17日前着

第三五五號

往電第二八九號ノニ關シ

十五日「ドーマン」、「ビーチ」、「フォックス」及吉澤會合「ド」ヨリ本件委員會組織ノ噂傳ハルヤ或ハ關稅商議ヲ目的トスルニアラスヤトノ懸念ヨリ議會方面ニ疑惑ノ目ヲ以テ見ル者モアル由ナルニ付テハ(貴電第二〇四號末段ノ情報ハ此ノ邊ニ根據ヲ有スルモノナルヘシ)委員會ト言フカ如キ名稱ヲ避ケ米國側ヨリハ差當リ從來本件處理ヲ命セラレ居ル今出席ノ三名ヲ出スコトシ度シト述ヘ吉澤之ニ同意シ隨時必要アル場合ハ別トシ毎月第三水曜日ニ參集スルコトニ打合セタル趣ナリ
紐育商務官へ暗送セリ

(3) 「セ」ハ夫レ以上ニ爭フコトヲ止メ兎ニ角關係ノ向ト協議スヘキ旨繰返シタルニ依リ吉澤ハ其ノ際ハ我方南進貿易ノ重要足溜リナル香港ヘノ輸出ニ統制手數料ヲ課スルノ如何ニ困難ヲ伴フカハ充分徹底セシムル様御配慮ヲ得度シト希望シ尙我方ノ希望スル比島駐在米國商務官ノ協力ハ之ヲ期待シ得ヘキヤト問ヒタル處「セ」ハ自分トシテハ別段ノ困難ナシト思考スルモ商務省當局ノ意嚮ヲ確カムヘキコトヲ約シ最後ニ今日ノ通報ハ米國側ノ意嚮如何ニ拘ラス日本側ニ於テ是等ノ措置ヲ執ラルル趣旨ナリヤト尋ネタルニ對シ吉澤ハ本省來電中ニハ近ク實施ノ答トアルモ我方最後ノ努力ニ拘ラス交渉ノ前途ニ見込ナク協定續行不可能ニ陥ル場合ニ於テモ尙我香港貿易ヲ阻害スルカ爲措置ヲ執ルノ理由ナシト信スルヲ以テ米國側カ今日ノ申出ノ趣旨ヲ了解セラレ双方ニ満足ナル條件ニテ協定第二年度實施ノ見込立タルトキ實行セラルヘキモノト思考スル旨答ヘ置キタル趣ナリ

馬尼刺へ轉電シ紐育商務官へ暗送セリ

360

昭和11年9月29日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

協定輸出限度超過分の翌年度控除問題を米國側は再度提起しないとの観測について

ワシントン 9月29日後発
本 省 9月30日前着

第三七九號

比島綿布協定第二年度ノ數字ノ問題ニ付往電第三四二號吉澤「セイヤー」會談ノ際「セ」ヨリ持出シタル儘其ノ後米國側ヨリ改メテ問題トシタルコトナキモ吉澤カ「ドーマン」、「ビーチ」等ト累次ノ會談ニ於テ得タル印象ニ依レハ我方新措置ニ依リ香港積替ノ數量カ協定ノ實施ニ左シタル影響ヲ及ホサス又各月ノ輸入量カ平均シテ片寄ラサル限リ米國側ハ從來主張シ來レル協定量最大限(四九、五〇、〇〇〇)超過ノ三百萬餘ヲ二年度輸入量ヨリ差引クコトヲ固執セサルヘキモ左リトテ我方主張ノ通り直接輸入量ノミヲ計算シテ四千四百萬ノ輸入ニ止マレリト爲シ第二年度ニ四千五百萬或ハ夫レ以上ノ輸入ヲ爲シ得ルコトヲ容認スルコトハ困難ニシテ日本側ニ於テ第一年度ニ最大限度直輸入濟

トナリタルモノト爲シ第二年度ヲ四千五百萬ノ範圍内ニ止ムルニ於テハ右三百萬餘ヲ不問ニ附シ以テ双方主張ノ妥協ヲ圖ラントスルノ意嚮ト察セラルルカ尤モ本件ハ第二年度實施狀況カ此ノ方針ニ合致シ而シテ日本側ヨリ特ニ持出スカ又ハ前記米國側ノ好マサルカ如キ事態ノ現出セサル限り米國側ヨリ持出ス氣配ナキ趣ナリ

馬尼刺ヘ轉電シ紐育商務官ヘ暗送セリ

361

昭和11年10月24日

在ニューヨーク鈴木(七郎)副領事より
有田外務大臣宛(電報)

米國綿業視察団出發延期の事情および日本側との協議方針に関する米國綿業協会会長の書

簡内容通知について

別電

十月二十四日発在ニューヨーク鈴木副領事より

有田外務大臣宛第五四号

右米國綿業協会会長書簡内容

ニューヨーク

10月24日後発

本

省

10月25日前着

第五三號

視察團カ日本二年末ニ着クコトニナラハ種々不便モ生スヘク出來得ル限り速ニ出發シ得ル様取運フコト必要ト認メラルルニ付テハ右「マ」書面ハ全文ノ到着迄ニハ尙少クトモ一週間ヲ要スルモノト認メラルルヲ以テ(三井ヨリノ分ハ十日發送大使館ヨリハ十九日發送爲念別電ノ通り電報スルニ付右ノ次第當業者ニ御傳達ノ上其ノ意嚮至急同示相成ル様御取計ヲ請フ

米ヘ轉電セリ

(別電)

ニューヨーク

10月24日後発

本

省

10月25日前着

第五四號

曩ニ本計畫カ米國綿業協會理事會ニ依リ承認セラレタル次第ハ十月一日御通知シ置キタルカ爾來如何ナル範圍ニ於テ討議スヘキカノ問題ニ關シ我綿業者ノ意嚮取纏中ナリシ處茲ニ會談ノ性質ニ付誤解ヲ生セシメサル様是等意嚮ヲ日本綿業者ニ傳達シ置カントス今回計畫セラレタル使節派遣ハ本質的ニ有效ナル米日親善ノ爲ノ使節ニ外ナラス抑々國際

⁽¹⁾ 二十二日當地出張中ノ吉澤參事官カ「トーマス」ト會談ノ際「マーキソン」カ市俄古大會日本部會ニ於テ演說ヲ爲ス豫定トナリ居ルコトヲ承知シタルヲ以テ二十三日「マ」ニ會見最初「マ」ノ話ニテハ視察團員ハ取引關係上十二月ニハ歸國ヲ希望シ居ルヲ以テ十月中心ニモ出發シ度キ意嚮ト了解シ居タルニ「マ」ノ大會出席ハ視察團ノ十一月二十日以後ノ出發ヲ意味スルコトナリ甚タ意外ニ感シタル次第ナルカ其ノ後ノ成行ハ如何相成リタルヤト尋ネタルニ「マ」ハ日本側ヨリ何等ノ回答ニ接セサルヲ以テ希望通り取運フコトヲ得ス出發ヲ延期シタリト述ヘ應答ヲ重ヌル中ニ米國側ハ米發大臣宛電報第三九〇號「マ」ヨリ三井吉田ニ宛テタル書面ニ對スル日本側回答ヲ待チ居ルコト判明シタル趣ナリ

⁽²⁾ 前記「マ」ノ書面寫ハ其ノ後本官ニモ送付セルカ吉田ニ於テハ格別日本側ヨリ返事ヲ要スルモノニアラスト認メ七日附本店宛要領ヲ電報(右要領ノ wording)ニ付テハ吉田ヨリ「マ」ニ照會「マ」ニ於テ同意ヲ表シ居レリシタル儘ニナリ居リ本官及吉澤參事官ニ於テ右ニ對スル回答ナキ爲出發日取決定ニ至ラサルモノトハ豫想セサリシ次第ナルカ一方

通商問題ノ調整ハ出來得レハ諸事實ノ公平ナル検討及是等諸事實カ論理上頷ルセラルル如キ解決ヲ承認スルコトニ基礎ヲ置カサルヘカラス現在兩國間ノ通商關係ハ全貿易ニ亘リ本質的ニハ競争的ナルモ其ノ比較的少部分ヲ占ムル綿業ニ付テハ相互的ノ理解ニ到達スルコト左迄難事ニアラス此ノ目的達成ノ爲吾人ハ米國綿業ニ關聯スル社會的、經濟的諸事實ヲ充分日本側ニ示シ是等ノ事實ハ米國綿業並ニ米國經濟全般ニ如何ナル關係ヲ有スルカニ付細説ヲ試ムルコトヲ希望スルモノナリ而シテ議論ハ隔意ナク又非公式ナルヲ望ムト共ニ日本側ヨリ爲サルル如何ナル質問又ハ意見ノ表示ヲモ歡迎ス

⁽²⁾ 我々ハ日本側ニ對シ如何ナル提案ニ付テモ特殊ノ「コムミットメント」ヲ要求スル意嚮ヲ有スルモノニアラス又彼等ニ對シ政策ノ明確ナル表示ヲ求ムルモノニモアラス綿業協會ノ役員ハ他ノ綿織物工業諸組合ノ役員ト同様實行計畫ニ關シ當該工業ニ屬スル個々ノ會員ヲ拘束スヘキ法律の權限ヲ有セス斯ノ如キ拘束的又ハ特殊的性質ヲ持ツ協定締結ニ關シ無力ナル吾人ハ日本側ニ對シテモ勿論之ト異ル態度ヲ期待スルモノニアラス

乍併是等ノ論議ハ終局ニ於テ相互的理解並ニ親善ノ増進ニ裨益スル所鮮カラス而巳ナラス延イテハ左記一、二ノ如キ好結果ヲ齎スヘキ可能性アリ

一、兩國綿業者ニ依リ相互の二啓發セラルルヤモ知レサル一般の見解ト一致スル日本綿工業側ノ任意的及一方の行動ニ紳士協定、終局的目標トスル日米兩國政府間ノ交渉再開ニ迄導クヘキ兩國綿工業者ノ平行の希望ノ發展
尙當該協定成立ノ場合ハ兩國綿工業ノ補助的施設機關ハ之カ管理ヲ援助ス

敘上ノ見解ハ勿論前提的ノモノニシテ日本側代表ノ申出ニ依リ修正セラルルモノナリ

吾人ハ又論議ノ全期間ヲ通シテ吾人ノ知識啓發ノ爲我々ノ共通の問題ヲ明カニスルニ役立つと思惟セラルル總ユル事實ノ陳述又ハ解説ヲ日本側ヨリ受クルコトヲ喜フモノナリ

362

昭和11年10月31日

在ニューヨーク鈴木副領事より
有田外務大臣宛(電報)

米国綿業視察団訪日は明年一月にしたい旨米
国側申出について

リ)ヲ有シ居レリ

前述ノ米國側意嚮ハ日本側ニ於テモ充分了解セラルヘキコトヲ衷心ヨリ希望シ且本邦側カ一月中ニ懇談ヲ爲スコトノ實際的ニシテ且機宜ニ適スル所以ヲ認メラルル様切望ニ堪ヘスト語レリ

就テハ右然ルヘク業者ニ御傳ノ上何分ノ儀同電アル様御取計ヲ請フ

米へ暗送セリ

363

昭和11年11月19日

在ニューヨーク鈴木副領事より
有田外務大臣宛(電報)

米国綿業協会会長より米国綿業視察団の来日

日程通知について

ニューヨーク 11月19日後発

本 省 11月20日前着

第六五號

往電第六四號ニ關シ

「マーキソン」ヨリ十八日附書翰ヲ以テ米側日程其ノ他左ノ通り申越セリ

第五九號

貴電第二四號ニ關シ

三十日「マ」ヲ往訪御來示ノ趣旨ヲ申入レタル處「マ」ハ本邦側業者ノ好意ヲ深く感謝スル旨述ヘタル後十一月中本邦ニ到着スル様準備スルコト今日トナリテハ米國側ニ取り不可能ナルヘク旁事實上委員ノ内二名(視察團員數ハ大體六、七名ノ豫定)ハ十二月一日以後ナラテハ出發シ得サル事情ニアリ又一方來春三、四月頃渡日スル點ニ至リテハ視察團派遣ノ儀カ萬一斯ノ如ク長期ノ延滞ヲ見ルコトモナラハ綿業協會ノ制御シ得サル埒外ノ策動分子カ其ノ間制限的立法ヲ次期議會ニ要求セント努ムルニ至ル危險性アリ旁斯ノ如キ事態ノ發生ハ早キニ及ンテ日本側トノ友好的會談ヲ行ヒ以テ其ノ危險ヲ未然ニ減殺スルコトノ極メテ望間數キコトヲ認メ自分トシテハ來年一月ノ最初ノ二週間又ハ三週間中日本側ト會合シ以テ政治的觀點ヨリ現狀ニ即應スル上ニ最機宜ニ適シ且多大ノ效果ヲ齎スヘキ相互間友好的感情ヲ醸成シ置クノ要アリトノ意嚮(有力會員モ同意見ナ

ニューヨーク 10月31日後発
本 省 11月1日前着

364

昭和11年12月7日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

米国綿業視察団に関する米國側の意気込みに鑑

み本省側も友誼的姿勢を示すべき旨意見申

ワシントン 12月7日後発

本 省 12月8日前着

第四五二號

貴大臣發紐育宛電報第六一號ニ關シ

七日國務省係官ト打合ノ爲來華シタル綿業視察團一行(全部ニアラス)ヲ午餐ニ招待シタル席上「マーキフエ」ハ右ノ報道ニ極メテ失望ノ色ヲ示シ本使ニ對シテ何トカ都合シテ自分等ノ訪日中井上商務官カ居合セ側面ヨリ連絡ノ任ニ當タラルル様御取計ヲ得間敷キヤト熱心ナル希望ヲ表明シタルニ依リ本使ハ兎ニ角御希望ノアル所ハ本省ニ取次クヘシト約束シ置キタルカ今日ノ會談ヨリ得タル印象ニ依レハ一行ハ日米通商問題ニ新生面ヲ開ク意氣込ヲ有シ居リ米國政府筋モ亦有ユル支持ヲ與ヘ居ル様子ナルヲ以テ假令會談

ノ結果必スシモ米國側ノ所期スルカ如キ結果ヲ豫想シ得ラレサル迄モ一行ノ意氣込ハ之ヲ了解シテ之ニ相當スル應對ヲ爲スノ要アルヘシト思考セラルルニ付テハ申ス迄モナキ儀乍ラ關係ノ向ニ御説示相成度シ外務省側トシテモ其ノ「デエスチュアー」ノ一端トシテ既ニ決定セル井上商務官ノ出發ヲ延期シテ一行ノ便宜ヲ計ル好意アルコトヲ示スハ如上ノ事態ニ顧ミ至極機宜ノ措置ト存セラルルニ付テハ重大ナル御支障ナキ限り右様御取計得度シ

在紐育商務官ヘ暗送セリ

3 その他諸国との通商問題

365

昭和11年2月7日 在バタビア石沢(豊)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

日・蘭印間通商問題解決方に関する蘭印経済

長官との会談について

付記 通商局作成、「昭和十一年度執務報告」より抜

粹

日蘭会商の経緯について

バタビア 2月7日夜発

本省 2月7日夜着

第二四號

「六日「ハルト」ヲ往訪シ先ツ本官ヨリハ日蘭會商ノ當初ヨリ兩國間通商問題ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當シ居リ政府及民間ノ主要關係者ト常ニ接觸ノ機會ヲ有シタルノミナラス日本出發前更ニ各方面ヲ歴訪シ充分意見ノ交換ヲ遂ケ來リタル次第ナルカ兩國ノ通商關係ハ一年前ニ比シ稍好轉ヲ示シ居レリトノ觀測ヲ爲ス者多ク且一般ノ對蘭印感情モ鎮ニ向ヒツツアルコトヲ認メタリ此ノ機運ニ乘

シ貴下ト協力シ通商問題ノミナラス諸懸案ノ圓滿解決ヲ圖ルコトハ雙方ノ利益ニシテ此ノ目的ノ爲努力ヲ爲スコトハ本官ノ最重大ナル使命ナリト確信スルニ至レリ就テハ余ノ第一ニ承知シ度キハ貴下ハ兩國ノ關係ヲ現状ノ儘ニ放置スルヲ可ト信シ居ラルルヤ將又何等カノ協定ニ到達シ以テ現在ノ不安定ナル状態ヲ安定セシムルヲ可ト信セラルルヤノ點ナリト述ヘタル處「ハ」ハ日本側空氣好轉ノ徵アルコトヲ承知シ欣ニ堪ヘス蘭印側トシテモ何等カノ妥結ニ到達スルコトハ素ヨリ希望スル所ニシテ決シテ現状ノ儘ニ放置セントスル次第ニアラス殊ニ當國ニ於テモ最近ハ日本ニ對スル感情モ可ナリ好轉シ居レルモノアルヲ認メ得ヘキニ付貴下カ右ノ如キ氣持ヲ以テ問題解決ノ衝ニ當ラレントスル限り自分ニ於テモ出來得ル限り協力致度キ次第ナリ自分ハ本來自由貿易主義者ニシテ蘭印ノ現在ノ通商政策ハ決シテ百年ノ大計ニアラスト信シ居レルモノナルカ國家ノ苦境ヲ脱スル爲ニハ已ムヲ得スト考ヘ居レルモノナルコトハ貴下ノ同情アルヲ了解得度シ自分トシテハ假令協定ニ達シ得ルトスルモ會商當時ノ如キ詳細多岐ニ亘ル形式ニ依ルトキハ徒ニ議論ヲ紛糾セ